

SEIJU 第23卷

成壽

秋季号

SEIJU

1994年

第 23 卷

横浜  
善光寺  
ZENKŌ-JI

残暑仰見舞申し下す

成壽弟廿三号と云送るはさす

今年日育英会設立十周年当寺開創  
廿五周年に正當に記念の式典及び事業に  
而快積賜り仰に有難うござります  
お暇をもつて盛會が有喜死に因成り  
次に私今般権大教師に補任頼  
此に之に皆極力仰並願の賜物を  
衷心より感謝申し下す

一層の精進を志すものあり  
何卒信旧の由交授とお願申す  
会者

平年六月廿一日

成壽の善史寺住職

黒田武志

各位

# 成寿山善光寺の歌

廣島一雄

一 あした夕べに みほとけの

恵みのひかり 身にしみて

涅槃のかなた ひたすらに

求めてやまぬ 法の道

日白かざりなき 成寿の山の

ああ横浜の 善光寺

三

紫雲のゆたかに たなびけば

教への波に おのずから

あまねく景を おろがみて

慈悲の深きに 真向かいぬ

如是かざりなき 成寿の山の

ああ横浜の 善光寺

二

崇き悟りの さいわいは

無上の思い 智慧の海

すべての無礙を 願いつつ

平常の心の 道を行く

帰依かざりなき 成寿の山の

ああ横浜の 善光寺



(v)

の め め む の ひ か り み に し - み -  
 は む じ ゃ う の お か も い ち え の - う -  
 は お じ え の な み に お の ず - か -

*mp* *p*

て ね は ん の か な た ひ た す ら  
 み す べ て の む げ を ね が ら い つ  
 ら あ ま ね く か げ を お ろ が み

*mf*

こ も と め - て や ま ぬ の り の み  
 つ つ ね の - こ こ ろ の み ち を み  
 て じ ひ の - ふ か き に ま む か い

*cresc. poco a poco*

*f*

ち ひ び か き り な き - な り す の や ま  
 く え か き り な き - な り す の や ま  
 め じ せ か き り な き - な り す の や ま

*f*

の あ あ ぶ こ - な 珠 の  
 の あ あ ぶ こ - な 珠 の  
 の あ あ ぶ こ - な 珠 の

*mp*

1.2. *p* 3.  
 ぜ ん こ う じ 2. た か  
 ぜ ん こ う じ 3. く も  
 ぜ ん こ う じ

おのれをむしばむ

錆さびは

鉄より生なずれど

その鉄を

きぎずつくるがごとく

不けがれ浄ひとある行者ひとは

おのれの

業わざにより

悪あしき処しにみちびかれん

大祖堂(右)と佛殿(左)



山門(三門。禅門における七堂伽藍の一。山林王、木原崇雲氏(故人)がヨシ夫人の冥福を祈っての寄進。)





僧堂(坐禅堂、禅林の修行の中心。僧形の文殊菩薩を安置。間口11間、奥行9間。昭和8年12月開堂。)

春浅い三月、総門（通称三松関、石川素童禅師筆「三樹松関」の扁額がある。大正九年建立）脇にある安下所<sup>あんげしよ</sup>で、これから本山で修行の第一歩を踏み出そうとする若い僧侶が、身仕度をととのえて参道を行く。四月の授戒会には全国から随喜の寺院ご住職や参拝の檀信徒で、さしもの広い本山伽藍も人びとであふれかえる。境内の樹木が緑陰を濃くする夏、いちよの葉が鮮かな黄色に変わる秋。朝夕の冷たさに初冬を覚える頃、僧堂のまわりに凜とした空気が漂う臘八撰心。除夜の梵鐘の音とともに新年が始まり、一段と修行の厳しさが増す寒中托鉢。雪の日、すっかりその様相を変える本山の境内地は、まるで深山幽谷の静けさ。ひととき、都会の喧噪を忘れさす。

十五万坪の境内地に五十余棟の堂宇。大都会の真唯中にありながら、見事に四季折々の風情を感じさせてくれる大本山總持寺。禅の道場として日夜修行に精進するところであり、全国各地から参詣や参禅に訪れる人びとが多い。



▲香積台（禅林の食事を調理する庫裡。正面奥に大黒天を奉安。平成二年まで本山の玄関「総受付」があった。大正九年建立。）

大鐘楼（山門左小高い双眸丘ふたみがおかに建つ。寺院では珍しい公募の図案で、大正四年建立。）







佛殿（典型的な禅宗建築で大雄宝殿ともいう。  
釈迦如来像を本尊とし、脇侍に大迦葉、阿難尊者像を安置。大正四年建立。）











大祖堂（客殿型法堂で、中央には開祖盤山禪師、三祖峨山禪師、永平寺開山道元禪師および  
總持寺五院列祖の尊像尊牌を奉安。昭和四十年盤山禪師六百五十回大遠忌建立。）





大本山總持寺

総門から参道 山門を見る。

カラ―■大本山總持寺

巻頭言

特集 ●開創二十五周年記念事業趣意書

●開創二十五周年記念の祝典

●鶴見の本山と瑩山禪師さま

カラ―■開創二十五周年記念式典

特集 ●横浜善光寺留学僧育英会十年の歩み

●設立十周年記念式典の盛儀

●日本佛教との交流 松ヶ岡文庫、鶴見大学、大本山總持寺を歴訪

●〈講演〉伝統は常に新たな創造の根源

カラ―■お便り「横浜善光寺留学僧育英会設立十周年おめでとうござります」

●横濱善光寺留学僧育英会設立十周年記念式典

カラ―■第十回育英生に辞令交付 開山忌と理事長母堂三回忌厳修

カラ―■第十回育英生辞令交付式 開山忌と理事長母堂三回忌法要

●ありし日のお母さまを偲ぶ——三回忌に寄せて——

特別読物 ●聖徳太子讃仰——善光寺 聖徳太子像奉安にちなんで——

カラ―■聖徳太子坐像

連 載 ●くらしの中で読む『正法眼蔵』

特別寄稿 ●禅の立場から見た日本仏教の現状と課題

●新宗正に老天月下方丈を推戴

声 記念出版『法燈の国際化をめざして』の反響 読者のたより 善光寺ユース留学生からのたより

題字・さしえ 伊藤三喜庵  
グラビア 五十嵐千彦

134 132 112 105 101 94 89 85 73 65 60 54 51 45 37 29 21 16 14 10



## 冠 頭 言

「松に古今の色なく、竹に上下の節あり」という言葉があります。時  
もまた寸秒の狂いなく、昔も今も変わることなく流れてあります。しか  
し、その中にも大小・長短いろいろの節目があります。

当山は今年、二つの大きな節目を迎えました。その一つは当寺留学僧  
育英会が設立十周年を迎えたこと、いま一つは当寺開創二十五周年に正  
当したことであります。よつてまず、留学僧育英会設立十周年記念につ  
いては去る二月二十日、駒澤大学総長桜井秀雄老師を導師に仰ぎ記念法  
要を厳修し、ついで韓国、仏宝の本山、通度寺の老天月下方丈を拝請し  
て記念式典を挙行しました。

こうに一言すると、日本では住職即方丈ですが、韓国では方丈と尊称される高德は全国で四人だけで、老天月下方丈は翌四月に曹溪宗の宗正（管長）に御就任なられた韓国仏教界の最高位のお方であります。

次に開創二十五周年記念については、五月三十日、大本山總持寺を会場として、五百五十余名の御参加をいただき洵に盛大裡に挙行することができました。まず梅田信隆眞首禪師御親修により大祖堂で記念法要を厳修し、ついで瑞応殿において記念式典、そして三松閣四階大広間で祝膳という、四時間に及ぶ一大イベントでした。

次に私事ですが、八月には権大教師に補任され、黄恩衣着用の榮譽を担いました。諸大徳の御指導、法友諸師の鞭撻、そして檀信徒の皆様のご協力御支援に心から感謝申し上げます、今後さらなる御引き立てをお願い申し上げます次第であります。

# ともに見る夢

夢みる力のない者は

生きる力もない（トラウ）

赤  
間  
義  
徳

「仏さまのお心とお徳を伝えなければ

日本だけでなく

世界も破滅の道をたどっていくに違いない。

お釈迦さまのみ教えを世界に広めよう！

世界と未来を広く見つめながら

情熱を持って布教できる宗教者を育てよう！」

黒田大圓方丈さまの大誓願のまわりには

ソンナコトガデキルワケハナイ

信ジラレナイ

という声が多かった。

それから 十年

留学僧は 五十七名





派遣先は 世界十七カ国

方丈さまのまわりは

スバラシイコトダ

コレが本当ノ仏教ノ国際化ダ

という言葉で飾られはじめた。

賞賛のただ中で

方丈さまは すでに

百年先 二百年先を

見つめていらつしやる。

情熱に溢れた若い人材たちが

世界のすみずみまで 根をおろし

仏法の花びらを 明るくそそぐ日を。

われら檀信徒も

毎食のひと口を献じて

方丈さまの

新たな 壮大な夢を

ともに 見させていたごう。

## 開創二十五周年記念事業趣意書

仮本堂を建てて「善光寺」と命名してより、はや四半世紀を閲しました。まことに光陰矢の如しというべく、月日のたつのは早いものであります。

今日を迎えられましたこともこれひとえに仏天の加護のもと、檀徒の皆様の大なる御協力御支援助の賜物で、感謝感激にたえないところであります。

思えば開創して十五年間は釈迦殿の建立整備に向かつての寺檀一体の精進の日々でした。

昭和五十七年めでたく釈迦殿が完成しましたので、翌年開創十五周年を記念して、本尊脇仏造頭、大般若経六百巻を勧請し、そして報恩行の一端として翌々五十九年に海外留学僧派遣育英会を設立し、六十年より留学僧を派遣し今日に及んでおります。

ついで平成元年、開創二十周年にあたり、主として不動殿の整備を記念事業とし、大日如来像をはじめ、薬師・阿弥陀の二如来像及び不動明王眷属、矜迦羅、制陀迦の二童子像の造立・須弥壇の整備等をおこないました。

何しろ三百年五百年の歴史を持つ寺々の間に伍してのことでありますので、矢継ぎ早やではありません

したが、さいわい檀家の皆様の御協力により目的を達成することができました。

さて本年は開創二十五周年記念にあたりますので、これまでの締めくくりとして次の記念事業を目論んでおります。

右趣意書にもとづき、檀徒の皆様のご協賛をいただき、左の事業を実施しました。

一、開創二十五周年記念式典の実施

五月三十日、大本山總持寺を会場として、梅田禪師様御親修法要と記念式典、祝宴の実施

二、善光寺留学僧育英会設立十周年記念式典の実施  
大韓民国、仏宝宗刹・通度寺方丈老天月下猊下を拝請、三月末当山において実施

三、記念出版物の刊行

イ、『法燈の国際化をめざして』（『法燈は海を越えて』、留学僧論文集第二集の刊行  
ロ、「善光寺の歌」CD及びカセット・テープの作成

四、内外の整備

建物・什物等の小修理

五、錦戸新觀先生造頭の聖徳太子坐像の勧請

平成六年八月吉日

# 開創二十五周年記念の祝典

## 「法燈の国際化」に称賛

成寿山善光寺開創二十五周年の記念式典が五月三十日午前十一時から、横浜・鶴見の大本山總持寺において、檀信徒五百人余の皆様が参集して盛大に行われました。

善光寺は昭和四十四年、ゼロから出発して二十五年の間に、幅広い活動とともに、開創十五周年を記念して設立した「横浜善光寺留学僧育英会」を通して国際的な育英事業を展開しており、日本佛教の新しい生き方として海外からも注目されています。

## 總持寺大祖堂で記念法要

記念行事は、總持寺大祖堂での記念法要で始まりました。法要に先だって、留学僧育英会常務理事の佐藤俊明老師（千葉県柏市・龍光寺住職）が法話を行い、引き続き大本山總持寺賞首・梅田信隆禪師さまの御親修により法要が営まれ、『修証義』読誦の中を参列した檀信徒全員が、佛祖の真前に焼香しました。





## 記念式典

大祖堂地下の瑞応殿での記念式典は、式典副委員長の越石周平氏（善光寺護寺会長）が開式の言葉を述べ、まず、来賓として出席された大本山總持寺の齋藤信義監院が總持寺と善光寺の深い因縁を話して次のように祝辞を述べられました。

「善光寺開山の黒田白純老師は昭和二十六年に總持寺副監院として、当時の渡辺玄宗禪師、大道英仙監院をお支えいただいた。

本山が能登からこの地へ移って八十四年の歴史がある。戦後一番苦勞されたのが渡辺禪師であり、弧峰智璨禪師だ。その時に黒田老師が御尽力された。この方が善光寺の御開山であり、そのお心を継いだお弟子様方が、善光寺方丈をはじめ皆さん御活躍されている。

善光寺様は法燈の国際化を目指して育英会をやっておられる。このような華々しい活躍をしているのは宗門でも善光寺様だけだ。この瑞応殿に「法堂上に鉢を挿む人を見る」という瑩山禪師の最期のお言葉が掛かっており、日々この言葉を重く受けとめているが、善光寺様はこれを実践しておられる」

また鶴見大学の高崎直道学長は、

「欧米では二十五年を区切りとして銀の祝い



とする。本日は善光寺とお檀家さんの銀婚式だ。新しい寺を開かれ、しかも二十五年の間に檀信徒三千家を持たれたことは大変なこと。行の実践は当然のことのように見えて、なかなかできない。発菩提心の人を菩薩というが、菩薩の行を実践しておられるのが黒田老師である。法華経の中に常不軽菩薩という方がある。黒田老師は、全ての人に佛の心があり、共どもに世の中をよくしていこうという願いを持っておられる方だ」

と、黒田住職の願行を讃えました。

さらに、天台宗総本山比叡山延暦寺の今出川行雲教化部長は、故・山田恵諦座主と善光寺との法縁に触れながら、

「山田座主は世界に向かって佛教者は何を成すべきかを常に説かれた。そして善光寺留学僧育英会に注目し、私を身代わりにして黒田さんに急接近した。黒田さんの仕事は世界に向けて

の人づくりだと思う」

と、善光寺の育英会を高く評価して、祝意を表わしました。

開基家の村岡有尚氏、総代表の伊藤喜三郎氏、檀信徒代表の大津正二氏らに感謝状、表彰状が贈呈された後、善光寺総代で防衛医科大学教授の中村治雄氏が、「長生きの秘訣」と題して記念講演を行いました。

中村氏は、①塩分をできるだけ控える。②油の質を選び、固まっている油は減らす。③繊維の多い野菜・果物をたくさん食べる。④できるだけ身体を動かす——などユーモアを交えて健康の基本を話しました。

式典委員長の伊藤喜三郎氏が「日本の佛教の中でも善光寺ほど檀信徒が増えた寺はないと思う。育英会に対する方丈様の情熱が実を結んできた。必ずや世界平和に貢献すると思う」と挨拶し、本寺の栃木県大田原市・光真寺住職黒田



俊雄老師は「皆さんの御理解と情熱に心から御礼申し上げる。善光寺方丈とは兄弟だが、育英会の浄行に対して感謝している」とお礼の言葉を述べました。

祝電はタイ国ワット・パクナムのプラ・タム・パンヤー・ボデー住職、韓国曹溪宗通度寺の老天月下方丈、ロサンゼルス禅センターの前角博雄主管、曹洞宗ハワイ開教総監部の松浦玉英総監、南米開教総監部の森山大行総監など海外か



伊藤三喜庵氏

らも寄せられました。

### 記念の祝宴

三松閣に会場を移しての祝宴では、開基家・村岡弘義氏の挨拶に続いて黒田住職が、

「皆さん本当に有り難うございました」と感極まった様子で謝辞を述べ、善光寺育英会十周年の記念出版『法燈の国際化をめざして』を手がけた神奈川新聞社出版局長の宮川康吉氏が開創二十五周年を祝う乾杯の発声を行いました。



# 鶴見の本山と瑩山禪師さま

横濱善光寺留学僧育英会常務理事  
龍光寺住職 佐藤俊明

## 一

開創二十五周年、まことにおめでとうござい  
ます。

近隣の寺々が四百年、五百年という長い歴史  
と伝統にまもられ、すべての面で安定している  
その狭間に、新しく寺を開創し、檀家の一軒も  
ないとところから出発して、わずか二十五年後の  
今日、檀家数三千を超える大きな寺に成長発展  
したことはまさに前代未聞のことであります。

これは、方丈様と皆様方が信心を培養し、一  
心同体となって精進された成果であり、心から  
敬服し、お祝い申し上げる次第であります。本  
日の記念式典も、出席者が五百人を超すという  
大勢のため、この御本山をお借りしなくてはな  
らず、これまた本山六百七十三年の歴史の中  
ではじめてのことではないかと思えますし、こ  
のご縁はまことに尊く有難いものであります  
で、この機会に、本山のこと、開祖瑩山禪師さ  
まの事どもを中心にお話し申し上げます。

日本の禪宗には、曹洞宗、臨濟宗、黄檗宗の三つがありまして、私どもの宗派はその中で一番大きい曹洞宗であります。これは「ソートーシュー」と澄んで発音するのが本当で、「ソードーシュー」と濁っているのは間違いです。

曹洞宗には「一仏兩祖」のさだめがあります。「一仏」とはひとりの仏さま、つまり釈迦牟尼仏、お釈迦さまのことです。「兩祖」とは、ふたりのお祖師さま、道元禪師さまと瑩山禪師さまのことです。

お釈迦さまは仏教をはじめられたお方で、そのみ教えを摩訶迦葉尊者がそっくりそのまま受け継がれ、それを阿難尊者が受け継ぐという風に、お師匠様から弟子へ、そしてまた弟子へと、正しく伝わり伝わって第二十八代目の達摩大師に至りました。達摩大師は、お釈迦さまか

ら正しく純粹に伝えられた仏法を弘めるため、晩年になってから三年の歳月を費して中国にやっつて参りました。そして中国禪宗の初祖になり、そのみ教えはインドにおけると同様正しく伝わり伝わって第十五代目に天童如浄禪師がお出ましになりました。丁度その頃、道元禪師が正しい仏法を求めて中国、当時の宋の国に渡り、さいわいにも天童如浄禪師に相まみえることができ、如浄禪師のもとで修行にはげみ、五十一代目の祖師に列せられて日本に帰られました。そして『正法眼蔵』という不朽の名著を九十五巻もお書きになり、すぐれた弟子を養成し、永平寺をお開きになりました。しかし残念なことに五十四歳でお亡くなりになりました。

さいわいなことに、道元禪師から四代目に瑩山禪師がおでましになりました。瑩山禪師は、上下貴賤の別なく、また老若男女を問わず、遠い近いのへだてなく、実に多くの人々から慕わ





れ帰依された、まことに衆生縁の厚いお方で、大勢の信者を教化され、すぐれたお弟子をお育てになり、また諸処方々にお寺をお開きになりました。五十四歳のとき、定賢律師から諸岳寺を寄進され、それを總持寺と命名して禅寺としました。こうして、道元禅師のきびしいみ教えをわかりやすく温かく包み込み、誰彼れの別なく導かれた瑩山禅師さまのすぐれた功績、すばらしい御活躍は後醍醐天皇のお耳にも達しました。後醍醐天皇は熱心な仏教信奉者でありましただけに、日頃いろんな疑問も抱いておられましたので、その疑問点を十カ条にまとめて瑩山禅師に御下問にられました。それに対する瑩山禅師さまのお答えが簡潔明瞭でしたので、後醍醐天皇は大いに喜ばれ、「曹洞出世の道場」とのお言葉を賜わり、本山としての地位を確立し、それまで無名であった教団が「曹洞宗」という宗名を公称することが出来るようになったので

あります。こうして、瑩山禅師さまの教えの流れを汲む法系の方々の開かれた寺が、曹洞宗全体の寺院の大部分を占めているのであります。ここから、他に類例のない、一宗に二つの本山がある曹洞宗ができたのであります。

道元禅師は正しい仏法の種子を蒔かれたお方ですから一家にたとえれば父親に相当します。そこで高祖さまと申します。瑩山禅師は、道元禅師の蒔かれた正しい仏法の種子をひろく国中にひろめられましたので、いわば母親に相当します。太祖さま、おふたかたを併せて両祖さまと申します。そして、高祖道元禅師の開かれた永平寺と、太祖瑩山禅師の開かれた總持寺を共に同列同格の大本山と申します。それから道元禅師には承陽大師、瑩山禅師には常濟大師という大師号を賜わっておりますので、正式には高祖承陽大師道元禅師、太祖常濟大師瑩山禅師と申し上げるのであります。

以上、申し上げましたように、日本の曹洞宗は、高祖さまと太祖さまのおふたかたのお力で、発展してまいったのであります。全国津々浦々にいたるまで曹洞宗のお寺があり、多くの檀信徒の方々が朝な夕なそのみ教えをいただいて暮らすことができるのは、全くこのおふたかたがおられたからであります。

### 三

さて、總持寺はもとこの地鶴見ヶ丘にあったものではありません。開創以来、能登の国、いまの石川県にあったのですが、明治三十一年四月十三日、不慮の火災により堂塔伽藍の大半を焼失してしまいました。その再建復興にあたり、時あたかも政治・経済の中心が京都から東京に移っておりましたので、時代の進展に伴って瑩山禪師のみ教えをより多くの人々にひろめるにはやはり首都圏に進出すべきだという意見

が反対論をおさえ、明治四十年この地に移ることとなり、明治四十四年十一月五日遷祖式がおこなわれたのでありまして、今年で八十三年になります。皆様<sup>が</sup>た<sup>が</sup>最初にお入りになられた本<sup>山</sup>で一番新しい、一番豪華な建物「三松閣<sup>さんしょうかく</sup>」は四年前、本山移東八十年の記念事業として建てられたものであります。なお、能登の總持寺跡は「大本山總持寺祖院」として堂塔伽藍<sup>が</sup>整備され、小規模ながら本山としての風格をそなえております。

八十年という歳月は、人間一個人の生命を尺度とすればおおよそ一生に相当する長い年月であります<sup>が</sup>、大きな歴史の流れからすればほんの一瞬であります。その短い時の流れの間に、ごらんのように、十五万坪の境内に五十余棟の堂塔伽藍<sup>が</sup>その威容を誇っておりますし、また、全国各地から参詣の方々や参禪の方々<sup>が</sup>日に日に多く、海外からもおいでになっておられます。

これは瑩山禪師さまの御遺徳のしからむるところであります。

瑩山禪師は御一生を通じ三つの誓願をたてておられますが、その一つの女人済度の誓願についてお話いたします。

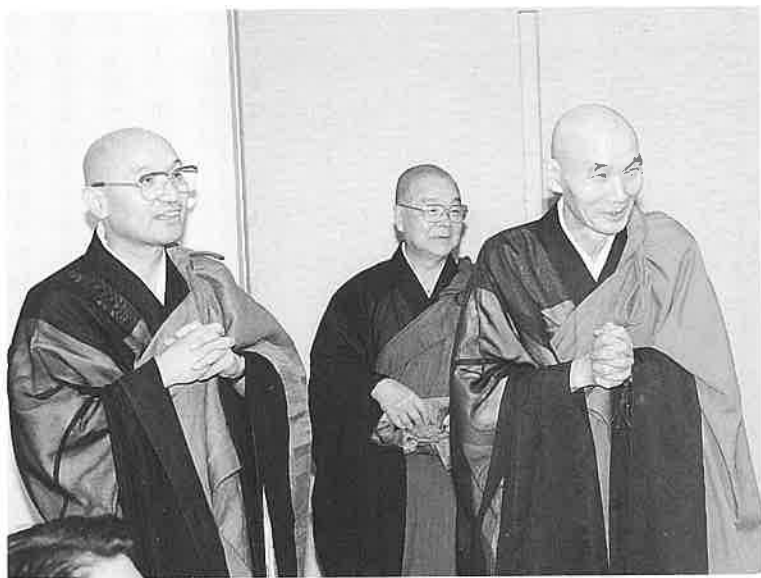
瑩山禪師が五十一歳のとき、観音信者だった母親・懷観大師えいかんだいしが八十七歳でお亡くなりになりましたが、その臨終の枕もとでの御遺言、「女性というものは苦勞の多い運命にさいなまれて生涯を過すごさねばなりません。どうぞ薄幸の女性のために、ほんとうの仕合せになることのできる心の支えを与えていただきたい」というお言葉が瑩山禪師さまのお心にしみ込んだのでありましょう。男尊女卑の風潮の甚しい当時、瑩山禪師さまは敢然としてその悪習打破を宣言されたのであります。この誓願を現代に生かそうとしたのが総持学園の経営であります。大正十四年、瑩山禪師六百回大遠忌、六百回忌の大法要

が厳修されましたが、この記念事業として開校されたのが鶴見高等女学校で、皆さん方の中にも卒業生がおられるかと思いますが、開校当時は生徒数わずか十六名に過ぎなかったのですが、いまや総持学園は、小学校がなければ、幼稚園・中学校・高等学校・大学まで七千人の女性を擁しております。鶴見大学の歯学部と幼稚園だけは男も入っておりますが、他は全部女性で、正しい仏法、禪を根幹とした教育によって大きな成果を挙げているのであります。

「宗教なき教育は賢い鬼をつくる」といわれます。賢い鬼は社会をこわすことはできません、社会を建設することはできません。日本は明治以来、無宗教教育をおこなってきたので賢い鬼が巷にあふれており、まことに物騒な世の中になりました。

賢い鬼をなくするには正しい宗教を根幹とした教育が必要であります。この点総持学園に学





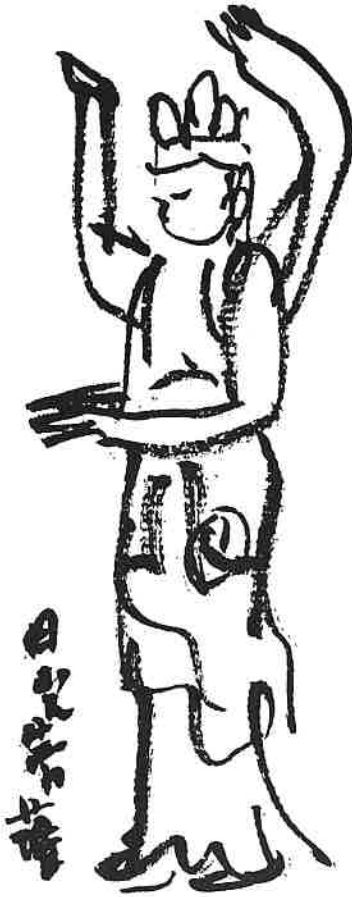
左から黒田住職、佐藤老師、斎藤監院老師



ぶ人たちはほんとうに仕合せであり、そしてそれらの人々はやがてお母さんとなられ、子供を養育なさるので、その影響ははかり知れないものがあります。

二十一世紀は心の時代といわれます。いや、すでに世界はいまや大きな音をたてて動き出しております。この大きな流れの中において真の

やすらぎを求める人々に対し、瑩山禪師さまのみ教えは大きな心の支えとなることであります。方丈さまは瑩山禪師さまのみ教えを体して寺門の経営にあたっておられますから、皆様も今までより以上信心を培養して共々に歩んでくださるようお願いし、善光寺さまのさらなる御発展を祈念いたします。



# 成寿山善光寺開創25周年 記念式典

平成6年5月30日 大本山總持寺にて



記念法要

大本山總持寺貫首梅田信隆禪師さま





▶ 『修証義』 読誦



▶ 太祖様の真前に焼香



▶ 大祖堂で



# 成寿山善光寺開創記念式典

記念講演  
長生への秘訣  
上野 中村浩一先生

祝賀  
長生

祝賀  
長生

祝賀  
長生





盛大に記念の式典



▲善光寺住職夫妻



◀ 鶴見大学高崎直道学長



▶ 比叡山延暦寺  
今出川行雲教化部長

横浜  
善光寺開創  
25周年  
式典会場

表彰状、感謝状の贈呈（御代理齊藤監院老師）





佐藤俊明老師 ▶



講演する中村治雄氏





「善光寺の歌」をリードする  
作曲家岡島雅興氏夫人



▲長廊下を歩く



祝  
宴  
会  
場

# 横浜善光寺留学僧育英会十年の歩み

理事長 黒田武志

## 横浜善光寺留学僧育英会

(旧称善光寺海外留学僧派遣育英会)

### の趣旨及び目的

昭和四十四(一九六九)年、横浜日野公園墓地の近くに善光寺を開創した私は、その経営基盤のほぼ確立した開創十五周年を記念して、昭和五十九(一九八四)年一月十五日、「善光寺海外留学僧派遣育英会」を設立した。その設立趣意書には次のように設立の趣旨が述べてある。

(前略) いまや人類は宇宙時代に入り、時間的にも空間的にも距離は著しく短縮され、世界はあたかも一国の観を呈しておりますが、反面、人類はかつてない不安と絶望の危機に見舞われております。これは明らかに現代社会の悲劇であり、今日ほど佛陀釈尊の教法宣布を必要とするときはないのであります。しかるに、わが国は世界最大の佛敎国でありながら佛敎界は遺憾ながら、世界の大勢に即応して教化の実を挙げる態勢に欠けており

ます。ここに海外生活を通して広く世界に活眼を開く人材育成の重要性を痛感するものがあります。

よって善光寺は開創十五周年を期して報恩行の一端として、海外に留学僧を派遣し、人材の育成をはかり、もって、佛教を振興し、世界の平和、人類の進運に寄与せんことを願ひ、海外留学僧派遣育英会を設立するものがあります。

右の趣旨にもとづき、「大学卒業相当以上の学力を有し、佛教を修学する者のうち、学業操行ともに優秀にして身心堅固なるものを海外に派遣し、佛教の興隆、国家社会の進運に寄与し得る有為な人材を育成することを目的とし、その目的達成のため、海外に留学僧を派遣すると共に、目的達成のために必要なる事業をおこなう（「宗教法善光寺海外留学僧派遣育英会規定」第三

条、第四条）ことになった。

### 育英会設立の動機、理由

「宗祖を通して釈尊に還る」というのが私の学生時代からの信念だった。

この信念に駆り立てられ、私は大本山總持寺特別僧堂、大本山永平寺僧堂安居を了えて直ちに佛舍利奉拝日本一周行脚を実施し、続いてインドに赴き佛蹟を参拝し、帰途バンコクにとどまり、上座部佛教比丘として九旬安居を修し、さらにはロスアンゼルス の禅センターに飛び、二年間開教師として欧米人の参禅指導に当たったが、この間にいただいた尊い佛縁がその後の私の、人間形成の土台になったことを思い、この尊い佛縁を私以外の若人にも味わってもらいたいし、その機会提供に協力したいものだというのが、かねてよりの私の念願で、これが育英会設立の根本の動機である。



ついで思い起こせば今から十七年前、『仏教タ  
イムス』の主催で、その頃よく「国際禅苑」と  
いわれた大本山總持寺の海外布教に関する座談  
会が開かれた。その席で私は南方上座部佛教と  
の交流の必要性を強調し、本山の修行僧をタイ  
国に派遣し、上座部佛教の比丘としての修行を  
経験させてほしいと提案した。さいわいそれが  
採用となり、翌年、三名の雲水がワット・パク  
ナムに派遣された。しかし有史以来はじめての  
この試みは、わずか三回で沙汰止みとなってし  
まった。その時私は、「これは人頼みでやれる仕  
事ではない。独力でやるしかない。近い将来、  
是が非でも実現しよう」と心に誓ったのだが、  
さいわい予想より早く機が熟し、十年前に育英  
会設立の運びとなった。

## 歴史的経過

昭和五十九(一九八四)年一月十五日、善光寺

海外留学僧派遣育英会の設立準備委員会が開か  
れた。委員は、東隆眞、黒田俊雄、佐藤俊明、  
鷺見透玄、中村治雄、奈良康明の顔ぶれである。  
(五十音順、敬称略)

まず私が、海外留学僧派遣の発願趣旨とこれ  
までの経過について述べ、各委員を紹介した。  
ついで、佐藤委員が設立準備委員長となり、私  
が基金を贈呈し、議事に入り、設立趣意書、規  
定、細則等を審議し、最後に役員の構成、委嘱  
について意見が交換された。(設立準備委員はそ  
のまま理事に就任。)

この年一年間を準備期間とし、秋に本山僧堂  
及び地方僧堂、佛教乃至宗教に関する学部を有  
する二十有余の大学に募集要項を発送した。こ  
うして翌昭和六十(一九八五)年度より、海外に  
留学僧を派遣して今日に及んでいる。派遣僧関  
係国、人数及び派遣先は次の通りである。なお  
派遣は原則として一年間、特に必要と認められた場

合は再派遣している。

○留学僧派遣国及び受け入れ国とその内容

(第一回～第十回)

派遣僧 56名(継続及び二カ国への派遣を含めると68件)

関係国 15カ国(1地域)

派遣国(11カ国)と内容

アメリカ10名 タイ10名 インド4名 ス  
 リランカ3名 イギリス3名 イタリア1  
 名 フランス1名 韓国1名 カンボジア  
 1名 オランダ1名 ドイツ1名

受け入れ国(8カ国、1地域)と内容

アメリカ1名 スリランカ1名 フランス  
 1名 中国2名 日本31名 韓国11名 バ  
 ングラデシュ1名 タイ1名 台湾2名

(平成六年八月現在)

○育英金支給金額について

・派遣の場合 欧米等は原則として、単年度百

万円に往復の旅費を支給する。ただし、アジア圏内、インド等は随時検討する。

・受け入れの場合 原則として単年度六十万円を支給する(月額五万円)。

育英資金を支給されたものは、いかなる義務束縛も負わない。

なお、第一回派遣僧の帰国、第二回派遣二師の休暇帰国を機に昭和六十一年八月二十八日、第一回総会を開催して以来、毎年回を重ね今日に至っている。

次に十年の歩みの中で特筆すべき事項を摘記する。

一、昭和六十二(一九八七)年十二月八日、上智大学アジア文化研究所とフランス・パリ第七大学主催による第二回日仏セミナーがパリ第一大学において開催された。出席要請を受けた私は「新しい寺院経営を求めて」というテ

一、マのもと一時間講演をした。草稿はほぼ全文が『中外日報』に掲載された。

二、なお、この年より、私と佐藤常務理事と二人連れてインドを振り出しに関係各国を歴訪し、今日まで次の十カ国を訪問した。

インド、スリランカ、マレーシア、タイ、ミャンマー、カンボジア、中国、台湾、韓国、アメリカ。

三、昭和六十三（一九八八）年、タイ国ワット・パクナムより釈迦牟尼佛の尊像が寄進された。そして四月二日ワット・パクナム住職を招き、子息四人が善光寺において得度の式を挙げた。

四、平成元（一九八九）年八月二十九日第四回総会において、細則中、これまで海外留学僧の派遣先がタイとアメリカに限定されていたが、要望に鑑み、新たに「理事会において必要と認めるその他の国に所在する研究機関」の一項を加えた。さらに、留学僧の受け入れ先か

らの要請もあり、また今後の推移を考え、第十一条として「必要に応じ海外留学僧を講師として受け入れ先に派遣する」との規定を設けた。なお、翌平成二年の総会において、留学生のうち、大学の教授、助教授クラスは育英会の講師とすると決められた。

五、平成三（一九九一）年十二月八日『善光寺海外留学僧派遣育英会論文集』第一集が刊行された。また、育英会の発足にそなえて、育英会設立の一年前に『成寿』の発行を企画し、爾来年二〜三回発刊し、今日までに二十五卷（特別号三卷を含む）を数えており、留学僧に関する記事はその都度同誌で報告している。

六、平成五（一九九三）年二月六日の第八回総会において、「善光寺海外留学僧派遣育英会」の名称が「横浜善光寺留学僧育英会」に変更になった。

七、新名称決定と同時に、名誉顧問八名、顧問

二十四名、理事九名、監事二名、参与六名が委嘱された。

### 現状に至る辛苦と将来への抱負

宗務当局や本山ならいざ知らず、一寺院が海外に留学僧を派遣すること、また、宗派にこだわらず、国籍も問わず佛教の勉強をしていただくという育英事業は、恐らくはじめてのことであらう。それだけに当初はいろいろな誹謗中傷などを受けた。

「石の上にも三年」と言われるが、十年を経過した今日、それらはあまり聞かれなくなり、ようやく認められてきたかという感を抱く昨今である。また、この大事業を実行するにあたり、私は檀家の方々に「食事ごとに一口だけ食べ物を減らして協力してください。それで佛法をひろめたい」とお願いした。そして檀家の方々はよく私を支えてくれた。

〃法輪転ずるところ、食輪おのずから転ぜらる〃ことを私は確信している。これが佛天の御加護ならば、援助してくださる檀家の方々はまさしく佛そのものである。〃檀越を敬うこと佛のごとくすべし〃という瑩山禅師の教えをひたすら実践したことが留学僧育英会の今日をあらしめたものと信ずる。

一昨年、第四回生のバシユー・ルース浄心さんが南フランスに禅堂を建てて開単した。「桃栗三年、柿八年」というが、育英会のタネが蒔かれて八年にして、柿の実が遠い国フランスに結実したことはまことにうれしいことである。そして昨年は、第八回生の韓仁徹氏がアメリカのフィラデルフィアに観音寺を建立した。

また昨年六月、第三回生の李幼麟氏を案内役として中国を訪問して、大きな成果を収めたが、これは李幼麟氏の語学力、人脈、そして人柄に負うところがきわめて大で、善光寺留学僧がそ

の力量を育英会のために發揮してくれた尊い成功例である。また、多くの留学僧に今後のグロ―バルな活躍を期待する。

### 十周年記念事業について

本年は横浜善光寺留学僧育英会十周年に正当するので、次の二記念事業を企画した。

- 一、記念式典 三月三十日善光寺において開催
- 二、記念出版

『法燈の国際化をめざして』

『留学僧論文集』第二集

### 日本佛教の国際的・現代的使命と

#### 育英会

わが国に佛教が伝来しておよそ一千五百年、その歴史は遠く永い。インドに発して中国大陸、朝鮮半島を経由して日本に定着した佛教は、日本の文化・生活・伝統の基礎として決定的な役

割を果してきた。

日本佛教は、思想的には平安時代の天台、真言の両宗に見られるような哲理の頂点をきわめ、実践的には親鸞、道元ら鎌倉佛教の祖師たちによって信仰生活の典型が示されている。そして、われわれは、いまその恩恵に浴している。冒頭にも触れたように、わが国は世界最大の佛教国である。しかし、日本の佛教徒は、日本の佛教こそ、ないしは所属する宗派の教えこそ、唯一絶対最高の佛教であるとおごり錯覚している部分がありはしないか。私は、ささやかな海外佛教の視察、研修の経験を通じて、そのことを痛感している。曹洞宗の私たちがよく使う「正法の佛法」ということばの真の意味するところはなんであるかということ、新しい二十一世紀の国際社会を展望しながら、みずからに問いかけたいのである。

さて、また、日本の佛教は社会的実践力に欠



けると非難されることがある。この批評で日本佛教の各宗派の現状をおおいつくすのは誤りである。現に曹洞宗には、児童福祉事業の藤本幸邦老師や曹洞宗国際ボランティア会の活動が国際的にも知られている。

しかし、日本の佛教は社会的実践力に欠けるという非難を、私は率直に甘受したのである。私は、もとより無能・無才であるが、私なりに、み佛のお加護のなかで、脚下を反省し懺悔しながら、その使命と責任を果したいと念願してきた。

日本の佛教徒の社会的実践にはなにかがあるか。立場により、考え方によって、いろいろのことが考えられよう。私は、新しい時代をなう国際的感覚豊かな佛教徒の登場、そのための人材育成すなわち育英事業こそもっとも重要かつ緊急を要することがだと確信している。佛法の興廃は人にありという先哲の古語は、不滅の真

理であろう。

私は、私どもの育英会について広くご理解とご協力をいただきたいと願っている。しかし、育英会の運営を進めるにあたって、周囲にご迷惑をおかけしたり、人さまに負担を無理強いる気は毛頭ない。

これからどこまで続けられるか。永遠の彼方を見つめながら、マイ・ペースで進んでいくのみである。



## 設立十周年記念式典の盛儀

来賓から称賛の言葉・黒田理事長「さらなる努力を……」

留学僧の育英事業を通して佛教の国際化と人材育成を図っている「横浜善光寺留学僧育英会」(昭和五十九年一月設立)の設立十周年記念式典が、三月三十日午前十時から、善光寺釈迦殿で挙行されました。法要導師は駒澤大学の櫻井秀雄総長、式典には韓国の三大寺刹の一つ、靈鷲叢林通度寺から老天月下方丈、定岳泰應住寺、釈梵河宝物館長の三人が来日して参列し、老天月下方丈が講演しました。これは、これまで育英会が韓国の日本留学生を育英生として採用し

てきたのに加え、黒田理事長が金襴と麻の九条袈裟と絡子、及び『正法眼蔵』九十五巻を通度寺に贈るなど佛教交流を深めてきた縁によるもので、日韓の佛教交流史に新たな意義をとどめる盛儀となりました。

### 記念の式典

式典は宮本延雄理事(鶴見大学学監)の司会で進められ、富永豊重監事(善光寺檀徒総代)の開式の辞で始まりしました。育英会顧問の櫻井

駒澤大学総長の導師で法要が厳修された後、櫻井総長はおおよそ次のように垂示されました。

「私も通度寺に拝登したことがあります。六四六年の開創と聞いているので、実に長い歴史をもっています。日本佛教は中国、韓国を通じて成立しました。過去においていろいろなことがありました。文祿元年（一五九二）に豊臣秀吉が釜山から攻め入った時、通度寺の伽藍は烏有に帰したそうです。

近年、佛教の国際化が言われます。キリスト教においてエキュメニカル・ムーブメントの動きが見られるほど国際化が重視されています。佛教は上座・大乘の別があつて、それが壁になっています。佛教の国際化は、戒律を生活の中に実践し、共通の佛教に生きることだと思いません。

外国からの留学僧が日本で共に佛教を研究し合うことは喜ばしいことです。善光寺育英会は

黒田住職が曹洞宗の宗旨を拡げておられるもので、黒田住職ほどの力を持った住職は曹洞宗にはいません。宗門人としてこの事業に何らかの援助をしなければならぬほどです。身の出家と心の出家が共に備わるのでなければならぬとの太祖大師（瑩山禪師）の教えを肯うならば、我々はあえて上座・大乘を分ける必要はありません。佛国土現成のために手を携えていくことを祈念します。」

この後、通度寺の老天月下方丈が講演し、黒田理事長との法縁に感謝の言葉を述べるとともに、佛教の目指す成佛について説き、また通度寺の歴史などについて話されました。（別掲）

次いで佐藤俊明常務理事が善光寺育英会十年の経過を報告し、「留学僧派遣は今年第十回を迎え、日本、韓国、中国、タイ、スリランカ、バングラデシュ、デンマークと八カ国から九人を採用し、日本、タイ、スリランカ、インドに送

ることになった。国際的になり、内容も充実してきた。この間、七年前から黒田理事長と共に関係各国へ表敬訪問の旅を続け、昨年で十カ国になったので、この日に間に合うように一冊の本ができた。十年間で派遣留学僧の数は五十七人、継続を含めると六十九人、また国籍は、日本人三十八人、外国の人三十一人となっている」と述べました。

### 来賓から称賛の言葉

来賓としてロサンゼルス禅センターの前角博雄主管、駒澤大学の鈴木格禪教授、善光寺檀徒総代の伊藤喜三郎氏がそれぞれ祝辞を述べました。

黒田理事長の実兄でもある前角主管は「育英会を理解し支えてくださった方々のお力と、向学心に燃え護法の念に燃えている留学僧の方々なくしてはできないことだ。たった十年間でこれ



だけの仕事をしている。『世界一花』の言葉があるが、今後も二倍、五倍の花弁をつけ、これが法の華となつて、世界中に芳しい香りをただよわせていただきたい」と励ましの言葉を贈りました。

鈴木教授は「道元禅師は五年の中国留学からお帰りになつて、『空手還郷』と言われた。当山の黒田方丈は空手にしてこの地に立たれた。普通なら何かつかもうとしてもがくが、黒田方丈は手を放ち、心を開いた。そのことが、すぐれた縁を抱くことになった。宗教は人によつて興り、人によつて滅ぶ。佛教も人により時代に生き、地上に生きる。黒田方丈は佛教の原点に立つて、真の人材を打出しようと発願された。そして檀信徒に呼びかけられた。育英会の誕生である。この会を契機として、多くの俊秀が宗旨の別、国境・国籍を超えて雲集している。大財閥がしているのではない。何も持たずにこの地

に立った空手の原点を忘れず、それに共鳴された檀家の方々により歩みを始められた。そこに黒田方丈の祈りと誓願と回向の行持、行実の真があつたからである。ロウソクは自分の身体を燃やすことによつて周りを照らす。線香は身を焼くことによつて豊かな香りを漂わせる。この会に育てられた方々は、黒田方丈の願いを願ひとし、祈りを祈りとして学問、実践の分野で表に立ち、また地の塩となつて人の世を照らす大いなる灯火となり、暗闇を救う妙香となつていきたいいただきたいと切に願う」と心をこめて祝意を表されました。

伊藤総代は「黒田方丈様との御縁は古い。結婚の仲人もし、寺を創るお手伝いもさせていだいた。夢の多い方で、育英会も、檀家の方々におかず代をけずつていただければいい、とにかくスタートすることが大切だということが始めた。方丈様の考えは、次の世代を担う立派な



宗教者を育てることだ。この偉大な仕事があった十年間でここまで来たのは奇跡のようなこと。方丈様の誇大妄想的な情熱がここまで引っ張ってきた。我々も社会に対して自慢できる。檀家の皆さんと今後もスクラムを組み、手をつないで、ロウソクの火を大きくしていきたい」と外護の情熱を披瀝しました。

通度寺と育英会の間で互いに記念品が贈呈され、祝電の披露の後、十周年の功労者として、役員を代表して佐藤常務理事、顧問を代表して檀徒総代の伊藤氏、篤志家の京浜倉庫（株）会長・大津正二氏に黒田理事長から「感謝状」が手渡されました。続いて留学僧に採用されたスリランカのサンガ・ラタナ氏に、未交付だった辞令が伝達されました。

留学僧を代表して、第五回採用の愛知学院大 学助教授・引田弘道氏、第九回採用のスリランカ僧侶キリネティヤネ・ヴィマラワンサ氏（愛

知学院大学大学院博士課程に在学中）が「育英生の言葉」を述べました。

引田氏は「育英会の素晴らしさは海外の僧侶に会えることだ。寺に育った子弟に欠けているのは、佛教をどう信仰するかということだ。

海外で生きた佛教の姿を見ることは学生にとって必要なこと。佛教は今を救う教えであるから、今を見つめることが重要と思う」と話しました。

ヴィマラワンサ氏は「黒田先生にお目にかかって、本当にお坊さんらしく大きな活動をしておられる立派な方と思った。民族・文化の違いはあるが、佛陀の教えから見るととき壁はないことが日本に来てよくわかった。奨学金のおかげで研究ができたことに感謝している。この寺にはアジアの人だけでなく、ヨーロッパの人も集まる。ここに来ると広く佛教のことを学ぶ機会が得られる。留学生は自分の国に帰った時、黒田先生のように世界のために生きることを願っ

ている」と感謝と決意の言葉を述べました。

「さらなる努力を」

### 黒田理事長が決意

黒田理事長は「有り難うございました。何も申し上げることはございません。さらに頑張っていくことをお誓いします」と感極まった様子で謝辞を述べ、最後に「善光寺の歌」を唱和し、



謝辞を述べる黒田理事長

越石周平護寺会長の閉式の辞で式典は終了しました。

引き続きて釈迦殿一階に席を移して清興が催され、奈良康明理事（駒澤大学教授）が「この育英会が日本の若い方々に外国へ行く機会を与え、外国の若い方々に、日本に来る機会を与えていることは素晴らしい。黒田理事長の発願・努力を抜きにして語ることはできない。黒田理事長は自分でレールを敷き、自分で機関車になってみんなを引っ張っていく。皆さんの大きな力を総合して十周年を迎えられた。このような式典を開くことができたこと自体が発展の証だ」と挨拶しました。

## 日本佛教との交流

### 松ヶ岡文庫、鶴見大学、大本山總持寺を歴訪

#### 通度寺の老天月下方丈ご一行を黒田理事長がご案内

「横浜善光寺留学僧育英会」の設立十周年記念式典に参列のため来日した韓国・通度寺の老天月下方丈ご一行は黒田理事長らの案内で、三月二十九日、鈴木大拙博士が晩年を過ごした北鎌倉の（財）松ヶ岡文庫を訪ねて、韓国と縁の深い文庫長の古田紹欽博士と歓談のひとつときを過ごされました。また、古田博士の案内で東慶寺、円覚寺にも参拝しました。古田博士は「老天方丈は持戒堅固の枯淡な禅僧で、韓国にはまだこのような僧がおられる」と喜んでいました。三十一日には佐藤俊明常務理事と東隆眞理事（駒沢女子大学副学長）が同行し横浜・鶴見の鶴見大学を訪問して、高崎直道学長と懇談しました。黒田理事長が「瑩山禅師は女性を大事にされた。ここは總持寺境内にある女子のための学校で、歯学部をもつ特別意味のある学校です」と説明すると、老天方丈は「世界的に男性上位の考え方がありますが、これからは女性上位の動きになっていきます。この学校を開かれた人は先見の明があります」とユーモラスに応じられました。老天方丈は「高崎学長の名前は韓国でも有名です」と語り、会見の機会を得たことを喜んでいました。高崎学長は「通度寺拝登の機会をまだもたない」と述べ、鶴見大学に保存す



鶴見大学学長室にて



る道元禅師の「対大己法」の断簡の複製を一行に贈りました。

黒田理事長が「老天方丈は戒律堅固、韓国で方丈と呼ばれる四人の高僧の一人です」と紹介すると、高崎学長は「日韓は同じ佛教の流れでありながら内容が違っていきます。お坊さんの修行の点では韓国のほうが真摯だが、両国それぞれに特色があるので、そこをご覧になっていたきたい」と話していました。通度寺の定岳住持が「通度寺には僧伽大学があるので、鶴見大学と交流できるといいが」と尋ねたのに対し、高崎学長は「将来、佛教の研究所ができれば可能と思う」と述べて前向きな姿勢を示しました。

韓国の叢林で使われている五つの器を重ねた木製の大きな応量器と書が老天方丈から贈呈されると、高崎学長は興味深い様子で手に取っていました。この後、宮本延雄学監の案内で四十五万冊の蔵書を誇る近代的な大学図書館を見学

し、古書など稀覯本を保存する書庫を特別に拝観して図書館の職員の説明を聞かれました。

引き続き大本山總持寺に拝登し、新築間もない跳龍室で貫首梅田信隆禅師と相見。ここでも老天方丈から梅田禅師に木製の応量器と書が贈呈されました。席上、東理事は「韓国から老天方丈らがいらしたのは善光寺との縁です。本山もこれから国際化時代にそなえて、善光寺育英会を大いに活用していただきたい」と梅田禅師に希望を伝えました。

大山興隆後堂老師の案内で大祖堂、僧堂を巡り、三松閣で昼食を頂いて下山しました。



〈講演〉

## 伝統は常に新たな創造の根源

老天月下方丈

老衲は韓国曹溪宗佛宝宗刹靈鷲叢林通度寺の方丈、老天月下と申します。今日は、横浜善光寺留学僧育英会の創立十周年を迎えて、国内外の貴賓の方々と同席し、記念法要を行うことになり、誠に光栄の至りと存じます。同時に、この喜ばしい式典に私共を御招待下さいました黒田武志理事長をはじめ、育英会の関係の方々に深く感謝申し上げます。

横浜善光寺の御住職であり、かつ、育英会の理事長であられる黒田老師が世界の佛教文化の発展の交流に大きく貢献されていらっしゃるのは、日本佛教界だけでなく、韓国佛教界にも広く知られております。黒田老師の偉大なお力に深い敬意を表します。一昨年は黒田老師御夫妻と佐藤俊明老師、東藤眞老師の四人の先生方が私の通度寺をお訪ねくださり金襴袈裟や大本山永平寺蔵版『正法眼蔵』九十五巻を御寄贈下さいましたことをこの席をお借りして、もう一度御礼申し上げます。

曹洞宗は日本佛教史上最も卓越した宗教者道元禪師によって開創され、「只管打坐、修證一如」を修行の根本にして精進なさっていることと存じます。道元禪師の名著『正法眼蔵』



による禅修行は佛教界に、高い禅思想を鼓吹させてきたと思います。また『正法眼蔵随聞記』や『典座教訓』の教えは修行僧の大きな道しるべになってまいりました。ところで「日日常行未證行、時時喫飯未證喫」という祖師のお言葉がございます。毎日行動するが行動していません。いつも食べるが食べていない、と言う禅句でございます。変わらない本来面目から見ると、行動しても行動する主はいないのであり、食べても食べる主はいないのであります。虚妄の肉身または衆生心には、行動する主もあり、食べる主もありますが、本来面目の佛生には、生と滅、名と相などの相対的な世界がなくなっているのので、行動する主や食べる主があるはずがないのでございます。ですから、衆生は

毎日働いているが働いている主がわからないのであり、食べているが食べている主がわからないのです。このような理由で正法は理解することがむつかしいのであり、実践することがむつかしいのでございます。では、どうすれば本来面目を悟り、正法を真に理解することができるのでございましょうか。たくさんの方がございしますが、話頭一念に精進すれば悟ることができると思います。話頭とは、分別妄想を断ち切り、一念に精進するものであり、修行者の生命であります。歴代祖師と千聖がみな話頭一念に出現されたのでございます。初心者は話頭を参究しようとしても一念にできないのですが、だんだん慣れれば、行住坐臥、語黙動静の日常生活の中で、日常そのままが修行であることがわかるようになります。ですから、話頭と日常は別ではありません。服を着て、食べて、働く日常がすなわち修行道場であります。不動智、自然智、佛智慧は遠いところにあるのではございません。これは既に一切衆生に具存されていると言うことをお釈迦様はおっしゃいました。佛教の目指しているものは、誰もが成佛するところにあります。そして、成佛は、時間と空間、世間と出世間を超越しているのです。ここにお集りの大勢の佛教徒の皆様、我ら皆成佛致しますよう。

私の居ります通度寺について少しお話致したいと思えます。通度寺は、今から千三百五十年前の新羅時代に、慈藏律師によって開創された、韓国佛教の戒律の根本道場、即ち、戒律の総本山でございます。昔から今日に至るまで通度寺は南山律宗の戒律精神がよく守られてきた道場であり、全ての佛教徒はもちろん、韓国人の信仰の帰依処となっております。

す。禪が佛様の心であるならば、律は佛様の行であります。律は佛教の実践であります。実践は全ての宗教の生命であります。千三百年の間よく守られてきたこの戒律の精神がこれからも全ての佛教徒の龜鑑と生命になるように、よく実践し、継承してまいる所存でございます。温故而知新という言葉のように、昔の伝統は常に新しい創造の根源であるので、戒律を厳しく守ることが即ち佛陀精神の根本であることを自覚し、通度寺の開創精神を守ってまいります。今日、横浜善光寺留学僧育英会創立十周年を迎えて、育英会の更なる御発展と御繁栄をお祈り申し上げながら、一句の偈頌をもって私の言葉を終らせていただきますと思います。（註 偈頌の現代訳は東隆眞先生）

若以紙墨顯我宗、達磨一宗拂地盡。

応に紙墨を以て我が宗を顯わさんとすれば、達磨の一宗地を拂つて盡きぬ。

〈現代訳〉まさに紙や墨（文字、言語を指す）でわが宗（佛法の真髓）を明らかにし

ようとすれば、達磨大師より伝えられてきた唯一の佛法はこの地上から消滅してしまふ。

若捨煩惱入菩提、不知何處有佛地。

應に煩惱を捨てて菩提に入らば、知らず何れの処にか佛地あらん。

〈現代訳〉迷いを捨てて悟りを得ようとすれば、どこに佛の世界があろうか（佛の世界は煩惱を捨てて菩提を得るというのではなく、煩惱すなわち菩提な

のである)。

参禅只在起疑团、疑去疑来似火团。

参禅は只だ疑团を起こすに在り、疑い去り疑い来りて火团に似たり。

〔現代訳〕禅を学ぶには、まず問題意識を抱くことがもつとも肝要である。不断に問題意識を起こして修行する情熱的でありさまは火のかたまりにも似ている。

横拈拄杖参方去、气似将军战一场。

横いままに拄杖を拈じて参じて方に去ること、気は將軍の一場に戦うに似たり。

〔現代訳〕思う存分に拄杖(師を訪ね道を求めて行脚するときにならずさえている杖)

を手に持つて、諸方を歴参する勇壮な気概は、まるで歴戦の將軍が戦場で戦うのに似ている。

卒地逢人挥正令、翻天覆地也尋常。

卒地人に逢うて正令を揮う、天を翻じ地を覆して也た尋常。

〔現代訳〕こうして人に会うては修行で得た実力を發揮する。

天をひっくりかえして地を覆うのもまた尋常(容易なこと、当り前のこと)である。

御静聴まことにありがとうございます。



老天月下方丈 プロフィール 法号・老天 法名・月下

- 一九一五年 扶余(百羅の都)生まれ  
一九三三年(18) 得度 以来通度寺で坐禅を続ぐ  
一九五六年(41) 通度寺住持  
一九五八年(43) " 金剛戒壇伝戒阿闍梨 (ācārya)  
一九六〇年(45) 大韓佛教曹溪宗中央宗会議長  
一九七五年(60) 曹溪宗立東国大学理事長  
一九七八年(63) 大韓佛教曹溪宗元老  
一九七九年(64) " 総務院長  
一九八〇年(65) " 宗正代行  
一九八四年(69) 靈鷲叢林通度寺方丈  
一九九二年(77) 社会福祉法人通度寺慈悲院理事長  
一九九四年(79) 大韓佛教曹溪宗宗正

お便り

## 〳横浜善光寺留学僧育英会〳設立十周年

おめでとうございます。

★福井県 南澤 道人老師

貴育英会が十周年を無事ご円成されましたことを、衷心慶祝申し上げます。とともに、今後とも一層佛法興隆と国際交流、世界の平和、そして貴育英会のご発展を祈念申し上げます。

★韓国・中央僧伽大学比丘尼修行館 陳 本覺先生

善光寺留学僧育英会ももう十周年。私のようなものでもご縁をいただき、自分の周りのことなどご報告することができて、感無量でございます。どうぞ、いつまでもお元気で、私たちの活動を見守ってください。

★静岡市 一郷 正道殿

留学僧育英会が設立十周年をお迎えるの由、おめでとうございます。人材の育成、学会へ

の貢献に浄財を回向しておられるお姿に、あらためて敬意を表します。宗門組織ですらかななかでできないことを一寺院がなさり、着実な成果を上げられている現状には、本当に頭が下がります。これこそ生きた活動といえましょう。ますますのご発展を心より念じております。

★神戸市 中村 淳子殿

十周年、心よりお慶び申し上げます。東郷敏さまにお逢いすることができ、そして黒田先生にご指導いただけます喜びは夢のようでございます。お言葉の一つひとつ、尊きお姿、忘れることなく日々の中に感謝の心に手を合わせております。記念のご本、拝読いたしまして、「花開けば必ず真実を結ぶ」という部分では涙があふれ、文字がかすみしました。

★東京都江東区 井上 葉智殿

育英会「十年の歩み」おめでとうございます。理想と現実とを一つにすることは、人にはいえぬご苦勞が多々おありになったことと思います。しかし着実に、苦難にもめげず歩まれてこられた黒田さまには、本当に尊敬と親近感が湧いてまいります。

先日、中央公論社にうかがって、四月下旬発行になります私の本の中に、黒田老師の写真を入れさせていただきました。国際化時代に、宗門の閉鎖性を破って、果敢に誓願実行され、十周年の節目をお迎えになったお姿を、どうしても私の本の記録の中にとどめてお

きたかったからです。

黒田老師の足もとにもおよびませんが、私も先月還暦を迎え、また新たな気持ちで精進していききたいと思います。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

★埼玉県 今泉 源由殿

十周年をお迎えになるまでのご努力やご苦勞を想うとき、ありがたく尊く感じ入ります。今後ともご接化ご指導よろしくお願いいたします。

★大阪市 金田 孝子殿

育英会十周年おめでとうございます。ご本を見せていただくたびに思うことですが、ゼ口からの出発でよくぞここまでの偉業を成し遂げられたと、ただただ感服いたします。ますますのご発展をお祈りいたします。

★福井県 沖田 玉映殿

このたび育英会創立十周年となり、心からお慶び申し上げます。ご老師さまが次々とご活躍しているお姿に、陰ながら嬉しく敬服しております。育英会の榮譽なる事業に参加させていただき感謝しております。他所へお話に行く機会も多いのですが、外国へ行かせていただき勉強し吸収したことが、今、どれだけ役にたっているかしれません。本当にあり

がとうございました。

★神奈川県 中野 良教殿

育英会十周年、誠におめでとうございます。ご老師さまの十年にわたるご熱情とご努力には、ただただ敬服いたし、さらに感謝申し上げます。

★長野県 松田 亮三殿

貴会ますますのご発展、心より欣快に堪えません。尊老師の初一念が日毎に結実、十年を迎えられ、尊い浄行に深甚なる敬意を表します。

★神奈川県 岩谷美也子殿

このたびは育英会の十周年式典がたいへんな盛況で意義深いものであったことを主人から聞きました。黒田方丈さまのご偉業のすばらしさを実感するとともに、心よりお慶び申し上げます。

★東京都 島田喜久子殿

育英会十周年おめでとうございます。尊いお仕事を始められ、そして続けていくということとは、どれほどかたいへんてございましたように、十年も…すばらしいこととてござ



います。

★宮城県 伊串 昇顕殿

育英会十周年ただただ感激しております。一昨年、貴会にたいへんお世話になりました。韓国の「権来順」は、立正大学にて修士課程を終えて、三月より仙台に戻り、今は玄光庵寮より東北大学に通い博士課程を了するため鋭意勉学を続けております。今後ともよろしくご布教指導賜りますようお願い申し上げます。



横浜善光寺留学僧育英会設立十周年記念式典



式典導師・櫻井秀雄駒澤大学総長



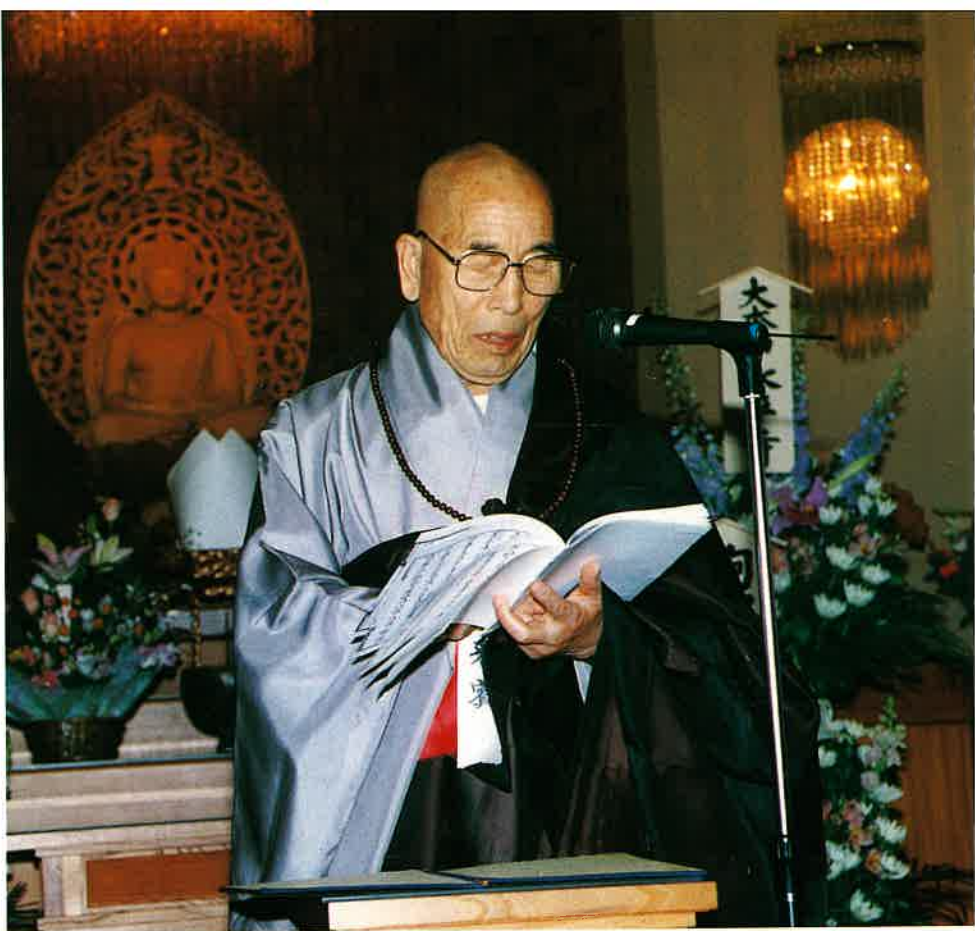


▶ 参列された留学僧ならびに関係者





▶ 韓国・靈鷲叢林通度寺方丈老天月下猊下



▶ 老天月下方丈から黒田理事長に記念品の贈呈



ロサンゼルス禅センター  
▼前角博雄主管の挨拶



▲佐藤俊明常務理事の経過報告



▲鈴木格禅教授の挨拶

▼挨拶する東隆眞理事





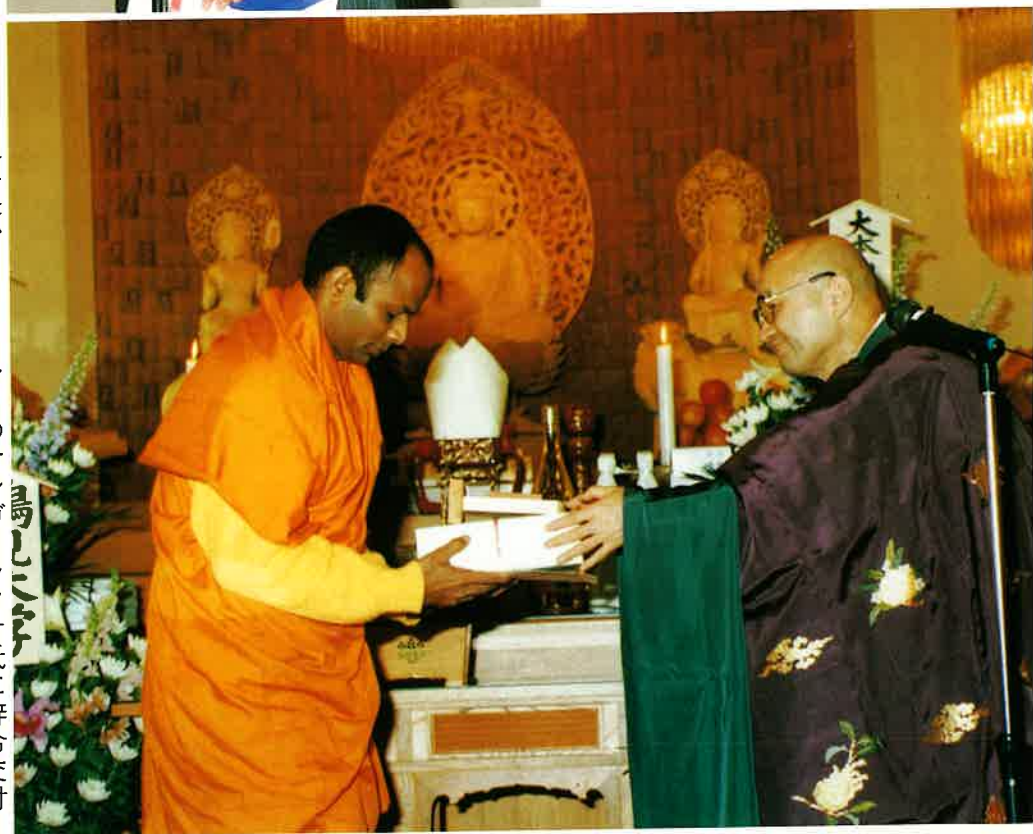
▶ 奈良康明氏の挨拶



伊藤三喜庵氏の挨拶



▶ 黒田理事長からスリランカのサンガ・ラタナ氏に辞令交付





日・韓佛教交流  
鶴見大学にて

▲高崎学長に記念品贈呈



▶学長室で歓談



▶図書館にて



▶ 大本山總持寺僧堂



◀ 大本山總持寺・長廊下にて

▶ 鶴見大学を訪問





記念式典に参列の皆様



◇横浜善光寺留学僧育英会◇

## 第十回育英生に辞令交付

—— 開山忌と理事長母堂三回忌厳修 ——

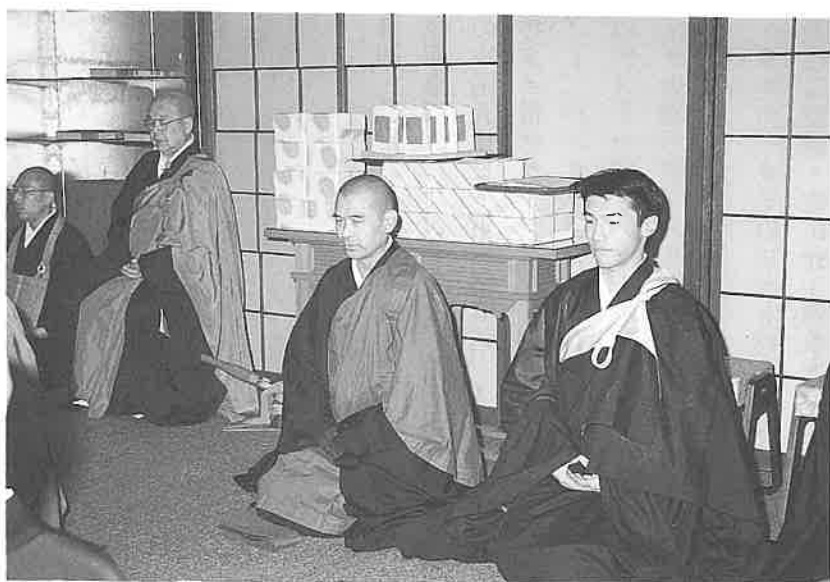
横浜善光寺留学僧育英会は二月五日午後二時から、第十回育英生九人の辞令交付式を開催し、併せて、東京・駒込吉祥寺の岩本昭典住職を導師に拝請して、開山忌と黒田理事長母堂・黒田嘉刀自三回忌を善光寺釈迦殿で厳修しました。

### 九人の育英生

第十回育英生九人は九カ国二十三人の応募者の中から審査選考され、これにより第一回から第十回までに派遣または受け入れた育英生は十

五カ国・五十六人になりました。

今回採用された育英生は、愛知学院大学に留学の中国人比丘・嘉木揚凱朝、スリランカに留学のタイ僧プラ・シャーンシャイ・キットイワソ、バンングラデシュから愛知学院大学へ留学のデイリップ・クマール・バルア、インドのプーナ大学へ留学の高野山真言宗僧侶・脇領至弘、駒澤大学大学院に留学のスリランカ僧サンガ・ラタナ、タイのワットパクナムに安居修行の天台宗僧侶・碓雄伸、佛教大学大学院に留学



の韓国人尼僧・孫順鎬（能仁）、龍谷大学大学院に留学の韓国人尼僧・金英子（法受）、立正大学大学院に留学の王文雄（台湾）の九氏です。

嘉木揚師は北京の黄帽派チベット佛教寺院「雍和宮」で出家得度し、中国西藏語学部高級佛学院を卒業。「雍和宮」で漢語・チベット語の佛教經典と佛教の教師を務めています。チベット密教についての研究をさらに深めるために愛知学院大学に研究留学。「佛法を弘め研究するとともに、東西の密教交流を深めるために努力したい」と意欲を燃やしています。

プラ・シャーンシャイ・キツテイワンソー師は、近畿大学通信教育部で日本語コースと商経学部商学科一回生を修了し、外語学校日本語講師、会社員などの経歴を持っていて、現在は全タイ国瞑想センター六十四支部の支部長です。スリランカ佛教大学の佛教学部に入學し、佛敎の理論と歴史を学ぶということです

デイリッパ・クマール・バルア氏は、ダッカ大学のサンスクリット・パーリ語学科を卒業し、さらに大学院修士課程を修了。「バングラデシュの上座部佛教と日本の大乘佛教を比較研究することにより、国内の密教との融和、団結をいかに強めていくかという大きな問題、さらにはイスラーム社会下での佛教伝道の方法等を学ぶことを主目的」に来日。日本では愛知県瀬戸市の曹洞宗宝泉寺（江川辰三住職）に寄宿し、曹洞禅の実践も体験するということです。

協領師は高野山大学を卒業後、日本大学大学院を修了。現在、博士後期課程三年に在学中で、高野山真言宗南泉寺の副住職でもあります。インドでの佛教研究を志望し、プーナ大学のサンスクリット高等研究所に研究生として入学します。

サンガ・ラタナ師は、スリランカのアマダールプラ・ビック大学の佛教学部助教授で、昨年、





私費留学生として来日し、駒澤大学大学院の研究者として大乘佛教の菩薩について研究しており、現在は博士論文に取り組んでいるところである。

碓師は皇学館大学の神道学科を卒業後、大阪護国神社、式内の堤根神社に奉職し、さらに京都の天台宗毘沙門堂門跡に入って僧籍を取得した異色の経歴をもっています。現在は那智山青岸渡寺に奉職中ですが、「アジア的な規模で宗教の意味を考え、本来の佛教徒としての修行がしたい」とタイで上座部佛教を学ぶ決意に及びました。

孫師は韓国の東国大学校僧伽学科を卒業後、日本の佛教大学社会福祉学科に入学し卒業。

さらに同大学院社会学研究科へ進み、修士課程を修了後、博士課程で学業に専念しています。修了後は母国の社会福祉事業に携わりたいとの

願いをもっています。

金師は、東国大学校禅学科、雲門寺僧伽大学を卒業し来日。昨年、龍谷大学大学院修士課程に入学し、唯識学の研究を続けています。東国大学の卒業論文テーマは「佛教の孝倫理について」で、教育学を学ぶうちに深層心理に興味を抱いて唯識学に行き当たり、今後は、博士課程に進んで唯識学と西洋心理との比較研究を試みたいとの熱意に燃えています。

### 称賛と激励の言葉

黒田理事長から育英生に辞令と記念品が手渡された後、吉祥寺の岩本ご住職が善光寺開山棟庵白純大和尚との浅からぬ因縁を偲びながら、「白純老師には二十年前から辱知道交の御縁を頂戴し、現方丈様にも引き続いて法縁をいただいている。その関係で日本の法要と育英会の辞令交付式という佛法にとって意義深い催しに参

画させていただいた。白純老師は温かく心の深い、お人柄の大きさ深さを感じさせる方で、私もその法悦の一端を享受させていただいた一人だ。白純老師が全日本佛教会の組織局長のとき、その下にいた者として、その御縁を今さらながら噛みしめている。現方丈様の育英資金交付については、一言では言い尽くせぬ御苦勞がおありと思う。一回や二回のことであればできなくもない。しかし、聞けばこれを十回、六十人になんなんとする佛道探求の学徒を世界に出しておられることに打たれ、その御努力に衷心より敬意を表する。恵まれた寺に育った子供は寺の庇護のもとに育つひ弱さがあるともいわれる。しかし、黒田家においては白純老師、そして北堂・嘉刀自の御指導のよきこともさることながら、それぞれに独立独歩の御活躍をしておられる。ことに北堂嘉刀自が亡くなるまで不断の努力を一貫された成果が、善光寺様においては今

日この通りだ。本日は開山白純老師の風姿を偲ぶとともに、北堂様の風貌も併せ思いつつ献香させていただいた」と挨拶されました。

善光寺役員を代表して挨拶した伊藤喜三郎氏は、「本日は感慨無量のものがある。方丈様と初めて知り合ったのはインド佛蹟を巡拝した時、共にホテルで寝起きしながら佛縁をいただいた。方丈様のスケールの大きさ、世に尽くすという激しい情熱に常日頃心打たれている。いま地球に何が必要かという宗教だ。この育英会は、宗派にかかわらず海外へ留学僧を派遣している。この方丈様のように生きていくと、地球上が温かいものになる。それには行動しなければならぬ。方丈様がそれを示してくれて嬉しい。皆さんもその意思を継いでいただきたい」と参列した留学僧たちに語りかけました。

佐藤俊明常務理事が育英会の十年の歩みと第十回育英生決定の経過を報告し、十年間に黒田

理事長、佐藤常務理事らが訪問した世界十カ国の訪問記と育英生の論文集・第二集が近く発刊予定であることを発表しました。

式典後の懇親会では、育英会の顧問である横浜・観音寺の住職梅田文丈老師（曹洞宗神奈川県第二宗務所長）が挨拶し、「本日は法友として参った。役員のお席を汚す者としてお礼の言葉を述べたい」として、黒田理事長の道業に敬意を表しました。また、理事の医学博士・中村治雄氏が開山白純大和尚に主治医として接した逸話を披露し、黒田理事長の行動力を称えました。曹洞宗宗議会議員で黒田理事長と同級の法友である三浦市・本瑞寺住職洞外文隆老師は、六百年の伝統をもつ自坊とゼロから出発した善光寺の有り様とを比較しつつ、「宗門が挙げてやらねばならぬことを黒田方丈は一人でやっている。彼一人に任せてはおけない」と、称賛と激励を込めて献盃の発声を行いました。

この日集まった育英生たちは、「育英会の目的を考えながら勉強していきたい」「育英金を無駄にしないよう大切に生かしたい」「勉強が終わった後は、黒田方丈様のように、社会のために尽くして働きたい」など、それぞれに決意と感謝の言葉を述べていました。



成寿山善光寺開山忌報恩供養法要香語

岩本昭典老師

正当示寂今年に値う

雪は白く風は寒し二月の天

讃仰す開山振起の基

梅花一点寺辺を彩る

山門恭しく惟みるに、平成六年が佛教紀元二千五百六拾年の如月五日、当寺開山棟庵白純大和尚示寂之辰に相い値う。敬しんで香華灯燭果茶湯を備え、謹んで真前に就いで隣邦諸山の老貴宿随喜の清衆を屈請して、参同契宝鏡三昧を遠誦し風誦す。鳩るところの殊勲は、品位を増崇し、以って上慈恩に報い上つるものなり。即ち山僧辱知道交之因みに、開山純老古佛の法愛享受すること並々ならず。

独格の風姿は未だ眼を去らずして感は一入なるものあり。爰に旃檀吉祥の蘭柴一片を拈せしむ。伏して冀がわくは、真慈容納せられんことを。正当恁麼の時応供不般の端的如何



付宣せん。

嘆

千江水あり千江の月  
万里雲無し万里の天

慈容納

成寿山善光寺開山忌報恩供養法要香語

焼香比丘 吉祥昭典敬識



# 善光寺北堂刀自安徳院殿嘉祥如慶禪尼

## 大祥三回忌供養法要香語

岩 本 昭 典 老 師

嘉祥如慶功昌々たり。仰ぎ見る孫枝子弟香ばしきなり。滅後三年春は寂然たり。梅花一点轉た芬芳たり。

恭しく惟みれば、山門今歳今月此の時、当寺開山榎庵白純大和尚示寂の辰の因に、当山北堂安徳院殿嘉祥如慶禪尼の大祥三回忌の忌辰に相い値うて、禪尼に資薦し報地を莊嚴す。想心に、禪尼は、生を長野県須坂之地に享けて、貞鑑垂範玉の如く、学を女子美術学校に修めて、明鏡の婦徳は光り有り。白純老師の好伴侶として、親しく内助の功勞を積み、寺庭の家政を裁く。次いで曰く。光真寺の護寺並びに那須寺桐ヶ谷寺善光寺開創しその貢獻に資す。米国の佛真寺不二寺の開基としての榮は、安徳の譽は尊きなり。深く祖道に帰依し、信念は須臾も忘ることなし。陰たる徳の福報は、梅花の心操淨うして塵なし。積善の余慶は、庭際の白梅春陽に傾く。

更に惟みるに。万物枯榮を現じ、能く諸行の無常を了じて、人の世の曲直を弁え涅槃の

道場に居登す。刹々本有、家郷黄鳥の樹林むとし 齊く法を説く。事々無礙法界、山河大地露堂々。

正当即今 大祥三回忌に資薦し、感応道交底消息如何が挙揚せん。

唳

安徳安徳喚無事

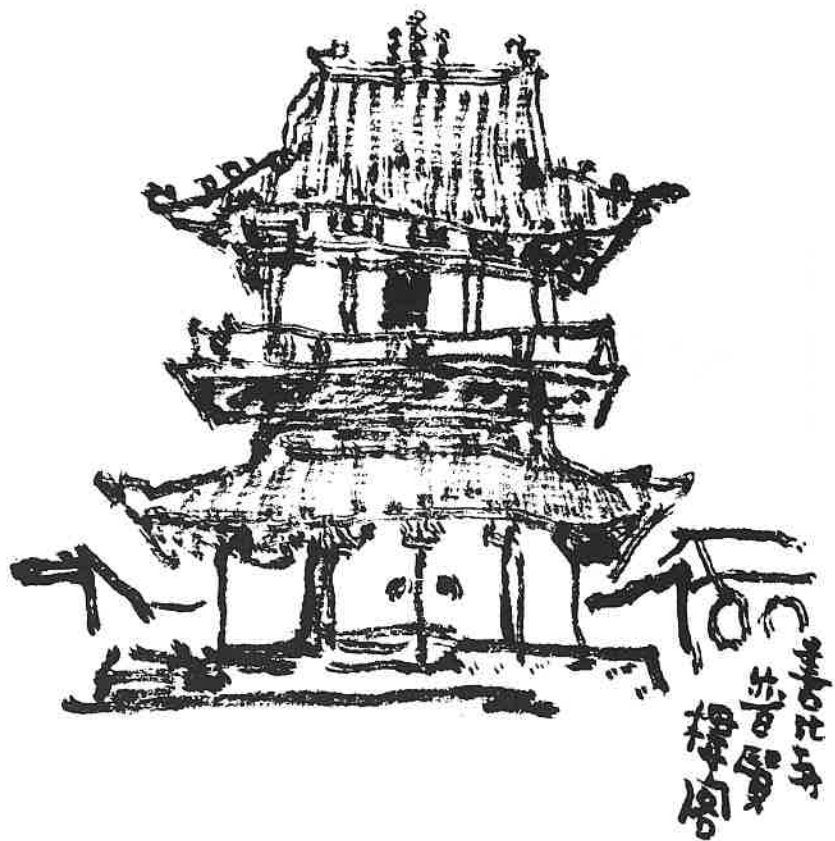
小玉は知らず檀郎を認める。

平成六甲戌年二月五日

善光寺北堂刀自安徳院殿嘉祥如慶禪尼大祥三回忌供養法要香語

吉祥昭典識す

嘉祥如慶功高々仰見孫枝  
子孫系一滅後三々玉堂  
思梅系一卓轉系一  
二月五日 善光寺北堂 刀自 安徳院殿 嘉祥如慶 禪尼 大祥三回忌 供養法要 香語  
禪尼 大祥



# 第十回育英生辞令交付式



◀ 第十回育英生の諸氏



善光寺開山忌  
安徳院殿大祥忌  
法要



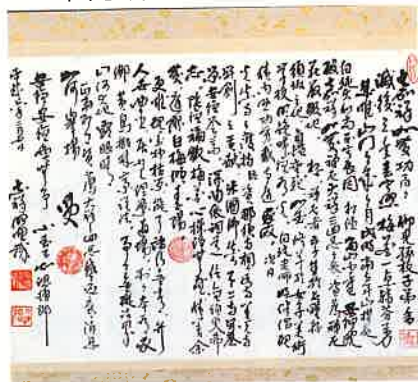
大導師・岩本昭典老師▶

▼ 焼香する黒田住職





▼三回忌香語



▲開山忌香語

▼吉祥寺・岩本昭典老師



▼黒田武志善光寺住職



▶伊藤三喜庵氏



▶佐藤俊明老師





▼ 嘉木揚凱朝師



▲ 挨拶する第5回留学僧・引田弘道氏

▼ 参列の皆様



# ありし日のお母さまを偲ぶ

——三回忌に寄せて——

東郷 敏

御生前から、お母さま、おかあさまと申し上げておりましたので、その様に呼ばせていただきます。

早いものです。光陰矢の如しとは申せ、方丈さまのお母さま。白純大和尚さまのみもとに逝かれてもう三回忌。キツト天国で安らしく、豊かに、新しい世界で、新しい御修行にいそしんでおいでのことだと思っております。

先程来、立派なご法要の中で、遠くに想い、近くに思いながら、ありし日のお母さまを偲

んでおりました。

小さく、まあーるく、やさしいお母さま。とても懐しく、ほのぼのとした想いで時を過しておりました。

白純大和尚さまをして最もご信仰篤く、生佛と称せられたお方でありますから、私の胸の中には、いまだ、お母さまはご健在でいらつしやるような気が致します。

昨年、成寿「夏号」と今年「春号」に、つたない筆ではございましたが、「方丈さまとの

出逢い」について、方丈さまの命により書かせていただきました。あの時点では方丈さまのお母さまは登場しておりませんでした。私も間もなく「宿善の助くるに依りて」この尊いお母さまにめぐり逢うことができました。色々と教えていただきました。

或る時でした。

「ネエ東郷さん、人間、何を見ても、何を聞いても驚きもしなければ感動もしないようになっては、人間はおしまいです。あたり前の事があたり前に出来ればそれで充分。それなのに、多くの人はあたり前のことを疎かにしてしまふ。真理を遠きに求めてしまふ。朝起きたら蒲団を挙げ、顔を洗い、神佛に手を合わせ、家庭に明るく大きな声で挨拶をし、食事は感謝していただく。その中にこそ、光り輝く尊いものがあるのですヨ」

と、淡々とお話くださったことがあります。



私はハツとして、とても新鮮なオドロキと感動が湧いてきたこと、忘れられませぬ。純粹で何時までも美しく、年を重ねたお母さままでした。

こんなは何気ないお母さまなのに、終生、人の為に、ご自分を尽し献げても、捧げても、なお足りないお気持ち、しかもそれを無上のよろこびとされたお方でした。こんなお母さまがそこにいるだけで周囲の人を幸福にする。

特に何か言われる訳でなく、何かをしてくださるのでもないのに、ただ、お顔やご様子を見ているだけで、こちらが幸せになつてくる。

「一隅を照らす尊い輝き」とは、こんなことを言うのでしょうか。「愛に満ちた」日々からかもしかされるこの美しき輝き。お母さまは、キットご自分の胸の中に、ご自分の手で彫り上げた、尊いみ佛さまを持っておいでに

なつたのかもしれない……

このお母さまこそが、今日、横浜成寿山善光寺の隆昌であり、輝きであり、礎なのでございましょう。

本日は、この三回忌法要に寄せて、お母さまに、私の「思い出」に感謝を添えて申し述べさせていただきました。

合 掌

平成六年二月五日



# 第 11 回 生

# 横浜善光寺 留学僧募集

平成7年度・1995

横浜善光寺留学僧育英会は、海外留学僧を募集いたします。

ご希望の方はご応募ください。

詳しくは、宗教法人横浜善光寺留学僧育英会の  
規程並びに細則をごらんください。



**ZENKŌJI**  
**YOKOHAMA**



## (目 的)

佛教を修学する者のうち、学業操行ともに優秀にして身心堅固なものを海外に派遣し、または海外より日本国内に受け入れ、佛教の興隆、国家社会の進運に寄与し得る有為な人材を育成することを目的とする

## (派 遣 先)

1. Zen Center of Los Angeles (LA禅センター)  
"923 S.Normandie Ave LA. CA. 90006 USA"
2. Zen Mountain Center of New York (NY禅センター)  
"Box 197, Mt.Tremper, NY 12547 USA"
3. Wat Paknam (ワットパクナム)  
"Bhasichareon Bangkok 10160 Thailand"
4. 理事会において必要と認めるその他の国に所在する研究機関、並びに国内仏教関係大学及び寺院

## (派 遣 期 間)

平成7年4月より一年間

## (給 費)

アメリカ・タイ及びその他の国における滞在に要する  
必要経費並びにその往復旅費

## (提 出 書 類)

### 1. 論文(次項による)

○ 論題

- ① これからの国際交流と仏教の役割
- ② 世界平和と仏教徒の誓願
- ③ 留学僧として私はこれを学びたい
- ④ 異文化の中で仏教を学ぶ

いずれか一題を選ぶこと400字詰原稿  
用紙5枚以上(A4版タテ書き)

2. 保証人と連署した願書
3. 卒業証明書
4. 履歴書
5. 推薦書
6. 健康診断書

## (募 集 人 数)

平成7年度 2～3名

## (願 書 締 切)

平成6年12月10日、事務局必着のこと

## (発 表)

平成7年1月10日、本人に通知する

## 横浜善光寺留学僧育英会

〒233 横浜市港南区日野中央1丁目12番9号  
TEL.045-845-1371 FAX.045-846-2000

# 聖徳太子讃仰

善光寺 聖徳太子像奉安にちなんで

横浜善光寺留学僧育英会理事 東 隆 眞

## 一

今年（平成六年・一九九四年）から数えて一四二〇年のむかし、わが国第三〇代敏達天皇（五三八―五八五）三年（五七四）、大和・飛鳥時代、聖徳太子は、橘豊日皇子（第三一代用明天皇。五八七崩御）、穴穂部間人皇女を両親として、大和盆地に生誕し、第三二代推古天皇（五四―六二八）元年（五九三）二〇歳のとき摂政（幼帝、女帝の代行。推古天皇は女性）となり、同三〇年（六二二）四九歳で死没した。

当時、わが国は、まだ統一的な国家としての形態がととのつていない段階ではなかった。崇仏派蘇我氏とこれに対する物部氏との確執が露骨となり、太子の周辺では親族間の熾烈な対立が生じ、政治状況もきわめて複雑な様相を呈していた。

このような内憂外患の渦中であって、太子は、朝鮮半島や中国大陸との交流をさかんにし、中国に遣隋使を派遣するなど彼の地の文化を移植した。蘇我馬子とともに力を合せて物部守屋を滅ぼした。一七条憲法、冠位一二階などを制定

した。蘇我馬子と天皇記、国記、本記などの国史を編纂した。このことは天皇制確立の萌芽ともなった。また、大阪に四天王寺、京都に広隆寺、奈良に法隆寺、飛鳥寺など七か寺その他を建立し、法華經、勝鬘經、維摩經などを講讀したと伝えられる。四天王寺には敬田、施藥、療病、悲田の四院を建てて、社会事業、福祉事業を実践した。

太子の五〇年に満たない、しかし波瀾に富んだ生涯とその事蹟は、日本歴史の発祥として、日本文化の魁として、日本人の代表の一人として、国民の生活意識の奥底に生きつづけて今日に至っている。百円紙幣、千円紙幣、一万円紙幣に太子の肖像や法隆寺夢殿が登場して永く親しまれた。

太子没して、ここに一三七二年、時を経るにしがたって、太子の生涯についてさまざまな異聞奇瑞を生み、その卓越した業績の評価も、評者

の立場によって、真偽、是非の論など、極端から極端に走ってとどまらず、いまなおその全貌は正確に把握されているとはいえないようである。それは、それだけ太子の常識を越えた存在の巨大さを裏書きするものに外ならないということであろう。

## 二

いま、聖徳太子と仏教とのかかわりに限っていうならば、実に、日本仏教は聖徳太子を度外視しては語ることは出来ないであろう。

太子が「一七条憲法」の第二条に「篤く三宝を敬え」と明示したことは、あまりにも有名である。

平安時代、比叡山に日本の天台宗を興した最澄上人（七六七？—八二二）は、来日した鑑真和上（六八八—七六三）の弟子、思託の発想をうけて、太子こそは天台宗第二祖南嶽禪師慧思

(五一四―五七七)の後身であるという。

また、高野山に真言宗をはじめた空海上人(七四一―八三五)も太子の再来であるとする伝説が生まれた。

また、太子は救世観音の化身だとか、第四五代聖武天皇(七〇一―七五六)の後身だと言われた。

鎌倉時代、法然上人(一一三三―一二二二)の高弟・証空上人(一一七七―一二四七)や一遍上人(一二三九―一二八九)も太子に深い尊崇の念を抱いた。

また、日蓮聖人(一二二二―一二八二)は、法華経を弘通した祖として太子を高く位置づけたのであった。

前後するが、親鸞聖人(一一七三―一二六二)にとつて、太子は「和國の教主聖徳皇」とまで称揚された。浄土真宗(真宗)は、太子信仰がもつとも盛んな宗派の一つである。

南北朝時代、中国禅門の初祖・菩提達磨大師を太子とする考えが生まれたい。太子を日本の禅宗の初祖とする太子信仰の一種である。

奈良の法隆寺には達磨大師の袈裟が秘蔵されているとか風聞したことがあるが、このような伝承も、右のことと無関係ではないであろう。

さて、太子は、世間を離れて山中で坐禅を好むばかりで法華経を広めようとしない小乗的な禅を否定している。しかし、菩提の果を得るには必ず禅定によると説いている。太子は、月に三度は法隆寺の夢殿に籠り、経文を写し、禅定を行うのが常であったという。坐禅を行い、経文を学び、社会、福祉事業を運営するという仏教の根本に対する正統的な理解のあり方を太子の事蹟に仰ぐのである。

### 三

わが曹洞宗の高祖道元禅師(一一〇〇―一一二

五三)と太祖瑩山禪師(一二六八—一三二五)は、聖徳太子をどのようにうけとめ、位置づけているのであろうか。

道元禪師は、『正法眼蔵袈裟功德』の巻で、「日本国には、聖徳太子、袈裟を受持し、法華、勝鬘等の諸経講説のとき、天雨宝華の奇瑞を感得す。それよりこのかた、仏法わが国に流通せり。天下の撰録なりといへども、すなはち人天の導師なり。仏のつかひとして衆生の父母なり。いまわがくに、袈裟の体色量ともに訛謬せりといへども、袈裟の名字を見聞する。ただこれ聖徳太子のおほんちからなり。そのとき、邪をくだき正をたてずば、今日かなしむべし」と書いている。

右によれば、聖徳太子は、袈裟を被着して『法華経』や『勝鬘経』などの諸経典を講説した。このことよって、仏法が日本国に流通したのであった。道元禪師は袈裟を着て仏道を学び、

仏典を講ずる聖徳太子に着目する。この意味において、まさに、聖徳太子は「人天の導師」であり、「仏の使い」であり、「衆生の父母」であると讃仰し、聖徳太子によって日本仏教が始まったと、口をきわめて高く評価するのである。瑩山禪師は、『伝光録』の「第五十一祖永平元和尚」の章で、

「夫れ、日本仏法流布せしより七百余歳に、はじめて師(道元禪師を指す。東註)正法をおこす。

いはゆる仏滅後一千五百年、欽明天皇一十三壬申歳、はじめて新羅国より仏像等わたり、十四歳癸酉にすなわち仏像二軸をいれて渡す。然しより漸く仏法の靈験あらはれて、後二十一年といひしに、聖徳太子仏舍利をにぎりてうまる。用明天皇三年なり。法華、勝鬘等の経を講ぜしよりこのかた、名相教文天下に布く」と示した。瑩山禪師にとって、わが日本国の正法の元祖

は道元禪師なのである。

これを前提としてではあるが、いま聖徳太子が仏舍利をにぎって生れたとすること、そして『法華経』、『勝鬘経』などを講説したことによつて、仏教のことばや教えが天下に広まることとなつたという点に注目したい。

道元禪師四世の法孫としての瑩山禪師は、道元禪師を「日本の元祖」と位置づけて仰ぐのであるが、道元禪師は、聖徳太子を元祖という用語は用いないものの、「人天の導師」「仏の使い」「衆生の父母」と極言して、あくまでも稱揚するのである。

(ちなみに、右のとおり『正法眼蔵袈裟功德』の巻と『伝光録』「第五十一祖永平元和尚」の章は、法華経、勝鬘経の講讀のみを記して、維摩経の名をあげていない。一般に、聖徳太子の代表的撰述としては、右の三経を製疏したことが知られる。もつとも三経の義疏については近代

に至つて偽撰説が唱えられており、また、これに対する根強い反論がある。道元禪師、瑩山禪師がともに、維摩経を講讀したことを明記しないで「等」とするのは、日本書紀を根拠としているからなのであるかも知れないが、道元禪師は維摩居士の立場を認めないので、維摩居士を主人公とする維摩経を問題としないことが、ここにこうしたかたちで反映しているのではないかと推測される)。

#### 四

このたび、曹洞宗、成寿山善光寺は、創立二十五周年の記念報恩行の一つとして、錦戸新觀仏師の一刀三礼の謹刻にかかわる聖徳太子像を奉安することとなつた。

敬礼拝見するに、この太子坐像(楠材一木造り。極彩色。総丈一二〇センチメートル。身長六〇センチメートル)は、奈良・法隆寺に秘蔵す



る国宝、摂政太子像に通ずる親しみ深い御姿である。

錦戸新観法眼は、わが国現代最長老の大仏師である。立正佼成会大聖堂の久遠実成釈迦牟尼如来像をはじめ、比叡山延暦寺根本中堂の伝教大師像、東京浅草の浅草寺の阿弥陀三尊仏、聖観音、梵天、帝釈天、仁王尊、地藏菩薩の諸尊像、東京音羽の護国寺の不動明王三尊仏像、神奈川の川崎大師平間寺の愛染明王像などなど、全国各地はもとより海外諸国にもその傑作は数多い。

善光寺の本寺・栃木県・太田原の名刹光真寺には同寺本堂の釈迦如来坐像、准胝観世音菩薩像、不動明王三尊仏像、文殊、普賢の両菩薩像などの諸尊像が安置されている。

善光寺には、不動明王脇侍の制吒迦童子、矜羯羅童子、大日如来三尊像（大日、弥陀、薬師）、法華経のレリーフ、十一面観世音菩薩像の

諸尊像が、すでに奉迎されている。

錦戸新観法眼は、明治四一年（一九〇一）茨城県下妻市に生れ、青年時代、仏師をこころざして山本瑞雲師に師事し、また第二次大戦が終り、昭和二六年（一九五二）天台宗の僧籍に入り、爾来、仏像彫刻ひとすじの人生を歩んでこられたお方で、平成四年、財団法人 仏教伝道協会のお教伝道文化賞を受賞された。

師によれば、「仏師が仏像を造るのは、本願主の心を己れの心として、仏の本願に帰依することである」（同師著『仏を彫る』）。仏師が仏の本願を正しくくみとり、その心を心として造りあげていくところに、仏師の本懐があるという信念と誓願をつらぬいてきたのである。

このたびの善光寺 聖徳太子像は、法眼最晩年の一大傑作といつて過言ではなからう。

どうしたことか、日本仏教の各宗派のなかで曹洞宗の寺院では聖徳太子を奉拝することはま

れである。日本の伝統仏教こぞって尊崇し、道元禪師、瑩山禪師また稱揚してやまぬ聖徳太子の存在について、曹洞宗の私どもは認識をあらためなければならぬ。

善光寺には釈迦殿がある。その中央の須弥壇上に曹洞宗のご本尊の釈尊の坐像がおまつりしてある。ただし普賢菩薩、文殊菩薩を脇侍とする釈迦三尊像である。

「宗祖（曹洞宗でいえば高祖道元禪師と太祖瑩山禪師の両祖）を通して釈尊にかえる」を誓願とする善光寺住職黒田武志師にとって、このたび、ここに聖徳太子をお迎えすることは、仏教の歴史的原点、宗教的発祥である釈尊に直結する道元禪師、瑩山禪師の教えを学び、実践する善光寺のゆくてに新しい大きな光をお迎えするにふさわしいものとなる。同時に、はからずも善光寺は聖徳太子をおまつりする曹洞宗寺院の先駆的な役割をになうことになった。

先にみたとおり、道元禪師は袈裟を被着する聖徳太子を讃美し、瑩山禪師は仏舍利をにぎって生れたという聖徳太子を讃嘆した。

黒田師は、つとに袈裟を国内はもちろん海外にまで普及することにつとめ、また仏舍利をわが国に将来するにあたって、多大の努力を惜しまない人である。ここに釈尊と聖徳太子と道元禪師と瑩山禪師につながる不思議な仏縁を痛感するものである。

とまれ、「世間は虚仮なり。ただ仏のみこれ真なり」と聖徳太子は教えをのこしている（天寿国繡帳銘）。善光寺聖徳太子像を拜して、この深い宗教的内省を、頂戴したいと願うものである。

# 善光寺諸尊像

錦戸新觀先生作



聖徳太子坐像

# 大日如来三尊像

(大日如来を中央に両側に阿弥陀如来、薬師如来)









法華経のレリーフ



# くらしの中で読む『正法眼蔵』

## 面授の巻——その四

成興寺住職

小倉玄照

仏祖の面目眼睛、かくのごとし。この仏祖に  
まみゆるは、釈迦牟尼仏等の七仏にまみえたて  
まつるなり。仏祖したしく自己を面授する正当  
愆<sup>いん</sup>時<sup>もじ</sup>なり。面授仏に面授するなり。葛藤<sup>かつとう</sup>をも  
て葛藤に面授して、さらに断絶せず。眼<sup>がん</sup>を開<sup>ひら</sup>し  
て眼に眼授<sup>がんじゆ</sup>し、眼受す。面をあらはして面に面  
授し、面受す。面授は面処<sup>めんじよ</sup>の受授<sup>じゆじゆ</sup>なり。心を拈  
じて心に心授し、心受す。身を現じて身を身授  
するなり。他方他国もこれを本祖とせり。震旦<sup>しんたん</sup>  
国<sup>こく</sup>以東、ただこの仏祖正伝の屋裏<sup>おくり</sup>のみ、面授面

受あり、あらたに如来をみたてまつる正眼をあ  
ひつたへきたれり。  
釈迦牟尼仏面を礼拝するとき、五十一世なら  
びに七仏祖宗、ならべるにあらず、つらなるに  
あらざれども、俱<sup>く</sup>時<sup>じ</sup>の面授あり。一世も師をみ  
ざれば弟子にあらず。弟子をみざれば師にあ  
らず。さだまりてあひみあひみえて面授きたれ  
り、嗣法<sup>しほふ</sup>しきたれるは、祖宗の面授<sup>めんじゆ</sup>処<sup>じよ</sup>道現<sup>どうげん</sup>成<sup>じやう</sup>  
なり。このゆえに、如来の面光<sup>めんくわう</sup>を直拈<sup>じきねん</sup>しきたれる  
なり。

## 現代語私訳

仏祖のかおかたちやゆんだまのありようはこのようなものである。今に生きる仏祖にまみえることは、釈迦牟尼仏などのいわゆる過去七仏にまみえたてまつることになる。そのときまさに、仏祖がしたしく自己自身を面授するのである。それは、面授をいのちとする仏が、面授をいのちとする仏に面授するのである。煩惱をまらんと含んだ仏のいのちを煩惱まらがかえて苦悶する相手に面授し、仏のいのちの傳承を断ちきらないようにする。眼を開いて眼から眼に授け、眼で受けとめる。面の表情を豊かにして面に面授し、面でそれを受ける。面授は、面そのものによって受けたり授けたりするのである。しかも、心をそこに込めてそれを心に授け、心で受けることであり、身を端的にそこに示してそれを身で授けることでもある。地上以外の他

の仏国土や、或いは他の国に於ても同じであつて、このような面授の祖師を本祖とするのである。中国以東については、仏から正しく法を伝えられた我が門のみに面授面受のことがあり、いきいきと如来を見たてまつる正しい眼を伝えて来たのである。

釈迦牟尼仏の面を礼拝するときは、如浄禪師に至る五十一代の仏祖や、或いは釈迦牟尼仏以前の七代の仏が、眼前に並んでいるわけではないし、その背後に連なっているわけではないが、同時にすべての仏祖と面授があるのである。一代であっても師をみなかつたならば弟子ではないし、弟子をみなかつたならば師とは言えない。例外なしに師と弟子が互いに見、かつ見られて、面授して来たのであり、そのようにして法を嗣いで来たというのも、仏祖のいのちが面授のところにはたちまちに輝くからである。それゆえに、師と弟子が面授するとき、如来の面の光をじき

じきに捉え、それを伝えて来たのである。

## 面授仏が面授仏に面授

凡夫が悟りを開いて仏になる——私たちはついそういうふうにかけてしまうのですが、道元禪師の説かれる正伝の仏法に於きましては、それは間違いです。「一切衆生悉有仏性」つまり、この地上に存在する一切のものは、そのまま仏性なのですから、凡夫は凡夫のままに仏なのです。修行の成果として仏になるとか、或いは面授して仏になるとか、そういうふうには考えれば解釈を誤ることになります。

「面授仏の面授仏に面授するなり」という一節は、その点で注目しなければなりません。これを例えば「面授によって仏となったものが、面授によって仏となるべきものに面授する」というような解釈をしたら、何だか違和感を覚えるはずで、「面授仏」は、「一切衆生」の本質

と考えるければならないのです。この地上に生存しているもの、つまり一切の生物は、「面授仏」にほかならないのです。

それは、ローレンツがハイイロガンを観察することによって発見した刻印づけ（刷り込み）の現象を思い起こしてご覧になれば納得がいくはずで、ニワトリとか、アヒルとか、或いはカモなどの離巢性のヒナは、孵化直後の短い時間内に見た刺激の対象のあとを追い、それを親とみなして成熟した後まで接触を保つというのです。大自然の中で孵化したハイイロガンなどは、その直後十数時間以内にはいる刺激は、例外なく親鳥のほずすから、ことはうまくはこんで行きます。けれども、人工孵化のヒヨコなどの場合には大変です。世話をする人間に面授してしまつて、ついには成熟後の配偶者の選択にまでそのことが影響して来るといふ笑えぬ喜劇が生じるのです。

離巢性のヒナの場合に顕著な現象としてローレンツは刻印づけの現象づけの現象を報告したわけですが、人間の場合にもそれに似た本性があるのではないかと予想したらどうでしょう。それを科学的に証明した人があるのかどうか。

その点になると私もよく承知していませんが、「面授仏の面授仏に面授する」という道元禅師の表現は乳幼児のときから始まって成長したのちも、人間は、面かほをみつめあうことによつて心を伝えあう本性を保ち続けているという前提があつてこそ生きてくるのです。少なくとも私たちはそのことに確信をもっていなければ、面授の真髄は臍へそおち出来ないと申してもよいでしょう。

### 葛藤が葛藤に面授

さて、面授したのちに仏になるのではなくて、私たちは凡夫のままに「面授仏」であるとした

ならば、「面授仏」が「面授仏」に面授するその「面授」のありようも私たちの常識的な感覚といささか異なつて参ります。つまり、凡を否定した聖なるものとしての仏を面授するのではなくて、凡も聖もまるごと包含した仏のいのちを面授するのでなくては、面授仏の面授ではないのです。

そういう意味で「葛藤かつとうをもて葛藤に面授して、さらに断絶せず」という一節は、きわめて重要です。読みとりに注意も必要でしょう。

「葛藤」は、つたとかずらのことですが、葛も藤もともにつる性の木で、からみつきもつれついで解けないことから、それを比喩的に使います。『正法眼蔵』には、「葛藤」という一巻がありますが、その中に

「おほよそ諸聖ともに、葛藤の根源を截断せうだんする参学に趣向すといへども、葛藤をもて葛藤をきるを截断といふと参学せず、葛藤をもて葛藤

をまつふとしらず、いかにいはんや葛藤をもて葛藤に嗣続することをしらんや。」

（おおむね諸々の聖者たちは、煩惱の根っこを断ち切るのを学ぶことに立ち向かうのだけれど、煩惱をもつて煩惱を切るのを本当のたちきることだということを知らないし、煩惱が煩惱にまつわりつくということもしらない。まして煩惱をもつて煩惱に受け嗣いでいくことが仏のいのちを嗣ぐことだということをどうして知ろうか。）

拙訳は、葛藤を煩惱のしがらみの比喻と解しての上のものです。あながちに不自然な訳でもないと思っています。このような「葛藤」に対する道元禅師の考え方を年頭におきますと「葛藤をもて葛藤に面授して、さらに断絶せず」という一節は、煩惱のしがらみの中に生きる私どもの生き方をそのまま肯定した上で面授があるのだということが納得できましよう。



最近、保育園を中心にして、若い保母さんや両親とつきあっていて気になることがいろいろあります。その一つが最近の若い人の不気味なほどの真面目さです。そのこと自体は決して悪いことではないのですが、若い人の他の人との関わりあいの淡泊さがその真面目さと決して無縁ではないと気づいてみると、ちよつと不気味になって来ます。

先だって、お供えの菓子折を一つ職員室で一緒に食べたのですが、お菓子が三つ余りました。そこで余った分は、ジャンケンをして勝った人が貰ったらどうですか、と家内が言いました。ところが、若い人はそういうことには気が乗らないらしく、結局、年輩の人に譲ってしまいました。同僚が向かいあってジャンケンをすれば、心の交流も持てて楽しいだろうという管理職の発想は空振りに終ってしまったのです。

きつと誰もが、幼い時から親の指示や先生の

言われることを素直にきくいい子で育って来たのでしよう。きょうだい喧嘩はもちろんのこと、友だちとも喧嘩ひとつしないで成長したのかもされません。その分、人との関わりも淡泊ですから、ジャンケンまでしてたつたひとつの菓子を手に入れたくもないのでしよう。

私は、常日頃から歯に衣着きぬせずにものを言う傾向があつて、よく人の感情を害することがあります。そのことを気にはかけていても習い性というのには不思議なもので、ふとした拍子ひょうしにその悪癖が出てしまうのです。そんなとき、いったん感情を害してしまつたらどうにもそれが修復の不可能な人がこのごろ増えて来たような気がします。怒らしてしまつたらもうおしまひになつてしまうのです。これが、ジャンケンをしたがらない傾向と軌を一にしているのではないかと、私は思うのです。

喧嘩をしたり、仲直りをしたり、そういうこ



との繰り返しの中に人間関係は深まって行くのだと私は思います。そうだとすれば、最近の若い人たちは、幼いときから喧嘩を抑制よくせいされて育ったのかもしれない。

もちろん、私のように何でもツケツケとものを言ったりするのも、幼児期に存分に喧嘩をしたり、仲直りをしたり、ということを繰り返して育っていなかったせいかもしれません。しかし、今更それを反省してみてもとりかえしはつきません。これから育って行く乳幼児たちに喧嘩をしたり、仲直りをしたりという生活を最大限に保証してやりたいと私が念じるのは、私自身の乳幼児期に対する悔恨が原点にあるせいかもしれません。

「葛藤をもて葛藤に面授」ということは、つまり、私たちの喧嘩をしたり、仲直りをしたりというまことに泥臭い人間どうしの葛藤をダイナミックに肯定した、いきいきとしたいのちを

相続して行かなければならないということなのです。そうでなければ、せっかく相続したはずのいのちがいつのまにか衰弱してしまい、断絶の危機に直面しかねません。

ところでもう一つ肝甚な点があります。それは、面かおと面と、或いは眼と眼を向き合わせた葛藤でないとな授は不可能だということです。電話や手紙で喧嘩を始めると、仲直りは不可能となってしまうかねません。とかく便利な文明の利器は、仏のいのちを伝えるためにマイナスにはなってもプラスにはならないようです。

著者紹介 小倉玄照（おぐら げんしよう）

一九三七年 岡山県に生まれる。一九六〇年  
駒澤大学仏教学部禅学科卒業。一九七三年  
曹洞宗大本山永平寺講師。

現在 岡山県苫田郡加茂町 成興寺住職

国立台湾大学での講演要旨 ■ 一九九四年一月一五日(土)

# 禅の立場から見た日本仏教の現状と課題

横浜善光寺留学僧育英会理事 東 隆 眞

## 〈前 説〉

手術退院後一か月足らずの病身を機上に乗せて、台湾に赴いた。

一九九四年・平成六年一月一五日午後二時より午後四時まで、国立台湾大学の哲学系館会議室で、「禅の立場から見た日本仏教の現状と課題」と題して、学生たちにも講演した。要旨は、後述のとおり。

通訳は、台湾大学の葉阿月博士(哲学系教授)と許介鱗博士(教授。日本総合研究中心主任)。

講演ののち、私は、横浜善光寺留学僧育英会理事長黒田武志老師とともに、台湾大学陳維昭総長と会談し、台湾と日本の学術交流の促進とその重要性において、

意見の一致に達した。私のメッセージは次のようである。陳総長は大いにうなづき、固い握手を交わした。

「このたび、国立台湾大学で講演する機会を与えていただいたことに心から感謝いたします。

また、ご多忙のなか、時間を割いて会って下さいましたことは、私にとって無上の光栄であり、よろこびとするところであります。

私は「イラ・フォルモサ」うるわしの島台湾への訪問は、二度めでございますが、今後も訪問したいとおもいます。

台湾と日本は、経済、科学、芸術などの交流を通し

て、これからますますおたがいに共存共栄していかなければなりません。

とくに、私たちは、宗教、学術、教育、芸術など文化の各方面で、国際交流をすすめて、台湾との相互理解を確認し、アジアの繁栄、世界平和の達成に努力し、

## 〈講演の要旨〉

### 一

ご紹介をいただきました東です。

このたび、国立台湾大学で、このような機会を与えてくださいました皆さまに、心から感謝いたします。

私は、「禅の立場から見た日本仏教の現状と課題」と題して、二、三のことからを申しのべ、みなさまのご批判とご指導をいただきたいのでございます。

仏教が歴史的、社会的に成立するについては、

地球上に真に豊かで美しい生活を実現しなければならぬと存じます。

いちばん大切なことは、こころの国際交流ではないでしょうか。

どうか、よろしくおねがいたします。

仏宝（諸仏・諸菩薩）、法宝（経、律、論）、僧宝（出家僧侶、在家信者）の三宝を絶対的要件とすることは、すでに、ご高承のことと存じます。

換言すれば、三宝は、教祖（仏宝）、教義（法宝）、教団（僧宝）であります。この三宝をモチーフとして、演題に対処したいとおもいます。

### 二

第一に、仏宝・教祖について。

仏教の開祖は釈尊であります。日本の仏教



は、釈尊をより正しく理解し、それぞれの教団において、はつきりと位置づけるべきであると私は考えるのであります。

私ども禅門に学んだ者に伝えられたところに  
よりますと、私は、道元禅師、瑩山禅師を両祖とする日本の曹洞宗に属するのですが、およそいまから二千五百年あまりむかし、釈尊は、三十五歳、十二月八日早朝、インド、ネイランジヤナー川のほとり、菩提樹のもと、金剛座上に坐禅をして、東の空に輝やく明星を見てお悟りを開いたとされています。

このとき、釈尊は、「我と大地有情(ありとあらゆるもの)と同時に成道(仏道を成就すること)す」という意味のことを叫んだといわれています。それは、およそ、あらゆるすべての存在は、おなじ一つの生命の営みであることを自覚することにほかなりません。

これが、仏教の歴史的発祥、宗教的原点であ

ります。釈尊の坐禅成道がもとになって、その後のさまざまな仏教の展開が行われたのです。その意味で、仏教は禅にはじまり、禅は仏教となっていたと、私どもはうけとめているのであります。のちに、禅は仏教の一つの流れとして位置づけられるのですが、そのなかにおいて、禅は仏教の特色を最もはつきりとしたかたちで継承し、堅持してきているのではないかとおもわれます。

日本仏教は、インド、中央アジア、中国大陸ないし朝鮮半島から伝承した、いわゆる北方仏教、大乘仏教であります。仏教は、今からおよそ一千四、五百年もむかしに、日本列島に伝えられました。爾来、日本人とともに、日本の歴史を歩み、日本の文化や日本人の生活に、多大の影響を与えてまいりました。日本仏教は、日本文化の基盤となりました。ですから、日本仏教を知ること、日本の文化や日本人のこころ

を知ることにつながるのであります。

日本仏教の特長の一つは、宗派仏教といわれます。いまから百年ほどまえの調査では、一三の宗と五六の派といわれるほど多くの宗派から成り立っていたのですが、百年後の今日では、およそ七万五千の寺院、約二万人の僧侶、信者数千万人、そして、この一三宗五六派から派生した仏教系新宗教が増加の一途を辿り、あまり多すぎて、正確な実数は把握されていないのではないかとおもわれます。

同じ一つであるべき仏教が、これでも仏教かと思まがうほどバラエティに富んでいます。このような事象に対して、いろいろ批判出来るとおもいますが、私は、人心の宗教的要求に三百六十度に向って対応しようとしている結果であるとうけとめています。また、既成仏教団の教化力が衰退したことを意味するのではないかともうけとめています。

さて、それぞれの宗派によって、帰依の対象としての仏・菩薩など、所依の経律論典、教団の構成要素もことなっています。

帰依する本尊に限っていいますと、薬師如来、大日如来、阿弥陀如来、釈迦如来、観世音菩薩、弥勒菩薩、地藏菩薩、不動明王、帝釈天、聖天など、さまざまな仏、菩薩などを崇拜し、信仰しています。この点、道、仏二教の礼拝像を併祀している台湾の仏教寺院と共通するところが多いと思われまます。

更につけ加えますと、各宗派には、それぞれその宗祖、派祖の祖師がいます。この祖師に対する信仰ははなはだ強いものがあります。

信仰の対象は、その宗派の本尊としての仏・菩薩、宗祖・派祖としての祖師との二段構えになっているのでありまして、これも宗派仏教の特長の一つでしょう。それで、先まわりして結論めいたことを申しますと、釈尊の存在はいよ





黒田武志老師(左)と東隆眞博士。国立台湾大学哲学系館会議室。

いようすくなつてしまつてゐるのであります。

そのなかで、釈尊を宗派の本尊とするのは、天台宗、日蓮宗と禅宗です。天台宗、日蓮宗は、所依の經典「法華經」の教えにもとづく久遠実成すなわち永遠の生命に生きる釈迦如来であります。

禅宗は、臨濟宗、黄檗宗、曹洞宗の三つの宗派がありますが、曹洞宗の場合、釈尊は、歴史上に存在し、坐禅によつて成道し、あらゆる人びとに真理を説いて、救いのみちを完成した釈尊です。これは、私が所属する曹洞宗を開いた道元禅師の釈尊観、本尊観と私はうけとめていきます。

私は、このような釈尊こそ、後世の哲学的、抽象的、観念的釈尊以前の生なまの釈尊原像であると考えます。釈尊を帰依する仏教徒の釈尊観であると考えます。

日本仏教史のうえで、釈尊に対する尊崇の念

が強い祖師は、十二、三世紀の鎌倉時代に限ってみても、明恵上人とか日蓮聖人は有名ですが、道元禪師もことのほか釈尊信仰の篤い祖師であります。道元禪師は、「十方の諸仏を見たてまつるべくんば、釈迦一仏を見たてまつるべし。かくのごとくならざる衆は、百万衆なりとも実に叢林にあらざるなり、仏道の衆にあらざるなり」(原漢文。『永平寺知事清規』)とまで強調して、釈尊一仏信仰をのべています。

各宗派が、それぞれ特色のある仏教を説くことは、衆生済度のために有意義な方法でありませんが、あい異なる本尊を立てて、絶対化するのあまり、仏教の開祖釈尊が軽視されてはならないでしょう。

また、ひとしく釈尊を礼拝するといっても、各宗派の釈尊観は、かなり食いちがいがあります。そのような食いちがいを、ある程度認めあひ、そのなかで、おたがいに釈尊に対するある

種の共通の認識、理解を共有しなければならぬでしょう。

もし、右の点をないがしろにすると、日本仏教は釈尊の仏教ではなくなるでしょう。他国の仏教との国際的交流、理解のうえで、違和感と障害を招くことにつながっていくでしょう。釈尊一仏を奉ずる東南アジアの上座仏教との相互理解をすすめていく上で、このことは、重要である。私たちの課題であると考えます。

### 三

第二、法宝・教義について。

これについては、二つのことをとりあげてみたいとおもいます。

一つは、十九世紀・明治以降の仏教研究の意義と限界についてであります。

ご存知かとおもいますが、明治(明治元年は西暦一八六八年)以降の日本仏教における仏教

研究は日本の西欧化、近代化すなわち文明開化のなかですすめられていったのであります。

国内の大乗非仏説論やヨーロッパの仏教学などの刺激をうけて、従来の漢訳仏典にもとづく宗派の教理学（宗乗とよんでいました）から脱皮しました。

サンスクリット、パーリ、チベットあるいは英、独、仏など各言語を駆使して、文献学的、歴史的、実証的、客観的ないわゆる近代仏教学、ヨーロッパ的仏教研究へ転換し、これを確立したのであります。

全国の国公立大学、私立大学に、インド哲学や仏教関係の講座を開設し、各宗派を設立母体とする仏教大学、仏教主義大学も誕生しました。各種の大蔵経、一切経をはじめとするぼう大な関係文献も、世界的視野と規模において蒐集し、編纂されました。

いまや日本の仏教学は、名実ともに、質量と

もに、世界の水準にあると考えます。そして、今後、日本の仏教学は、他の科学、学問とともに、ますます充実発展していくでしょうし、また、させていかなければなりません。これも、学術研究としては、きわめて重要なことです。

しかし、ここで、いささか懸念するのは、「仏教学盛んにして仏教亡ぶ」という事態を招いてはならないということです。

たとえば、日本の仏教学は、過去の仏教文献の整理ないし解説がその主流であつて、これも一つの学術研究としてはきわめて重要な意義をもつものではあります。その反面、仏教学者には、未来に向つて新しい価値を創造し、世界平和のために役立てていく前向きの姿勢が欠けているのではないかと反省させられます。

たとえば、また、近代的仏教学がすすめられていくなかで、各宗派の信仰の理論的根拠や実践体系となつている宗乗も、宗学と名称をあら

ためて近代的手法を尊入したのですけれども、同時に各宗派の信仰は不合理で主観的に過ぎ、取るに足らないものとしてしりぞけられる傾向を生み、宗学や信仰の衰退を招いてしまったようです。

その結果、各宗派の宗学者は自信を失い、その宗派に属する人びとは、思想、信念にその主体性を見出すことが困難となり、ひいては日本仏教が信仰の面で衰微してしまつたのではないかと思われまゝす。

これに関連して深く感じさせられるのは、貴大学の葉阿月博士の仏教学者としての姿勢です。葉博士は、多年にわたつて日本の駒沢大学、東京大学大学院で仏教学を専攻され、東京大学で文学博士の学位を取得された当代一流の仏教学者です。私がお会いたした博士は、在家信者としての戒を奉じ、名利から遠く離れることをこころざし、私財を投げ打つて、学塾をつくり、仏



聴衆が続々と集まつてきた。

教を広め、人材を育成したいという誓願を抱いておられるすがたでした。博士は、すぐれた仏教学者であると同時に、篤実な仏教信者であります。女性としての生涯を、仏教ひとすじにささげつくしてこられたお方とおみうけしました。

日本の仏教学者のなかには、学者としてのいうところの客観的公正な立場を強調するあまり、仏教の信仰を無視したり、仏教の信者を軽んずる傾向があったり、ひどいものになると、僧籍にありながら仏教とは無関係な立場であることをよそおったりする状況があります。このような事象にかねてより疑念をもっていた私は、葉博士の敬虔な態度にあらためて尊敬の意を表するものであります。

葉博士がおっしゃるには、台湾の仏教研究は、漢訳仏典の台湾仏教が研究対象の中心であるので、サンスクリット、パーリ、チベットの語学研究はなく、比較研究もなく、仏教大学もない

のですから、日本より五十年おくと申されます。

私は、台湾仏教の状況については、お恥しいことながらなにひとつ承知しない者ですが、私が訪れた仏教寺院の竜山寺でも、名前を失念しましたが、ある道教の廟でも、境内の一角に、仏教や道教を説いた印刷物が山のように積まれております。代金を支払う必要はなく、自由に持って行ってよいのです。寺や廟はきわめて開放的で、参詣人の出入りははなはだ自由のようです。螺溪石硯を購入するために立ち寄った文房具店の店先には、観音經の施本が置いてありました。もちろん無料の施本です。このように、台湾では、仏教の布教がたいそう活潑です。民間のすみずみまで浸透している様子をうかがわせます。私はこのことに深く考えさせられたのでした。

やや話題が飛躍するかも知れませんが、私の

所屬する曹洞宗には、駒沢女子大学をはじめ五つの大学がありますが、これらの大学に本格的な仏教や禪文化の国際的研究機関があると世界に向って公言できるかどうか。私たちは、この点、大いに、今後に向けて努力しなければなりません。

また、学術研究の国際的機関ばかりでなく、本格的な国外仏教布教のシステムや、財政予算の点で十分ではないのではないかというのが、日本仏教の伝統教団の一般的現状のようです。世界に教えを弘め、すべての人びとに安らぎを与えるのが仏教の使命ならば、単なるかけ声やきれいごとのセレモニーを行ってお茶をにごすという無責任なことではなく、真正面から国外開教の対策を講じなければなりません。

これらについては、ここでは論じつくされませんので、いずれ機会を改めて申しのべることとし、今は、仏教学研究と国外布教との国際的

組織の現状と課題を指摘するにとどめておきましょう。

いま一つは、禪門の宗義に関する現代的課題です。

現今の日本の禅宗は、鎌倉時代に中国からもたらされた臨済宗、曹洞宗、そして江戸時代に伝えられた黄檗宗、この三つの宗派があります、臨済宗、曹洞宗は、坐禅を修行することによって、現世において真実の自己を自覚し、覚悟することが原則となっています。黄檗宗は、この世で悟りを開き、来世の極楽浄土往生を願って南無阿弥陀仏の念仏をとる教えと聞いています。私が新店市の光明寺でいただいた『仏門必備課誦本』という日用經典集を拝見しますと、朝の勤行では大悲心陀羅尼などを誦誦し、暮れの勤行では阿弥陀経などを誦誦するようになっていきます。台湾の仏教は、禅と浄土教とがたくみに統一されているのでしよう。



臨濟宗、曹洞宗は現世の悟りが中心となっており、それは禪の特長をよくあらわしているといわれます。これに対して、黄檗宗は死後の救いを説いているので、浄土教的な要素が混入しており、純粹な禪宗ではないと見る人もいます。台湾の禪門と日本の黄檗宗との同異点について、私は大きな関心をもっています。

ひるがえって、人間は必ず死にます。そして死後の世界に関心がある限り、死後の問題を解決したいと願うのは当然であります。禪宗の出家僧侶は三界の大導師といえます。大導師たる者、死後の迷いがあつてはならないと私は考えます。しかし、日本民族固有の祖霊信仰にもとづいて、檀信徒の葬祭にたずさわっているかぎり、檀信徒の死後の救いについても、禪にふさわしい教化策が講じられなければならないでしょう。坐禅して現世で悟りを開きなさい、死後のことについては思わすらうと説くばかり

では、十分な宗教的満足はえられないのではないのでしょうか。

日本の既成仏教の僧侶は、どの宗派であろうと、檀信徒の葬祭に熱心です。しかし、日本の多くの民衆は、死の苦悩を解決するために、僧侶の教えを乞うなどということは、ほとんど見あたりません。上智大学のカトリック神父アルフォン・デーケン教授の教える「死の準備教育」(デス・エデュケーション)は、海外にまで大きな反響をよんでいます。このことは、日本仏教の僧侶、禪宗の僧侶の及ばないところでありましょう。

また、社会的問題として浮上している臓器移植にかかわる死の定義など、仏教、禅僧の側の発言はほとんどない、発言があつたとしてもとりあげられないのは、僧侶が僧侶としての本分のつとめを怠っているため、社会的信頼を失っているからであると私は自戒の意をもってうけ



左より台大の葉阿月博士、許介麟博士(通訳役)、黒田武志老師、東隆眞博士。講演が終って質疑応答がはじまった。

とめています。

禅僧は、確固不動の宗教的信念を堅持すると同時に、社会的認識、歴史的感觉を駆使して、めまぐるしく流動する複雑多様な現代を教化していかなければなりません。学術研究に、基礎的研究と応用的研究とがあるとするれば、日本仏教の場合、仏教の応用的研究がはなはだしく欠けている、あるいは的確ではないということになるでしょう。

#### 四

第三に、僧宝・教団について。

日本仏教における教団の現状と課題に関して、一、二の点を申しのべましょう。

日本仏教は、中国大陸、朝鮮半島を経由して日本列島に伝来した当初から、国家と密接なかわりをもつてまいりました。

また、民族固有の宗教としての神道、中国か

らもたらされた儒教、道教、ヨーロッパからのキリスト教などと交流をつづけながら存続してまいりました。多様な宗教、習俗、文化が混淆し、自然崇拜、祖霊信仰が中心となっています。十七世紀ごろ、江戸時代に檀家制度が出来て、現在に至っています。十九世紀の、明治時代に、男性僧侶の肉食、蓄髪、妻帯を国の法律で公認することとなりました。

その結果、日本のほとんどの仏教徒は、神仏をまぜあわせた多教混淆の信仰であり、個人単位の宗教というよりは家単位の宗教であり、僧侶なかんずく男性僧侶には戒律もなく、世俗化がどんどんすすんで、今や実質的には出家僧侶と在家信者との区別もなくなりました。僧侶は、宗教法人としても法的保護と特別の措置をうけている積極的な意味がいま問われています。寺院は、いまや住職の私有財産と化しているのではないかとの疑問の声もあがっている

ようです。

多くの僧侶は、上座仏教あるいは小乗仏教の戒律に比して大乘戒の優位を強調し、大乘戒を一箇の理念としての頭の中で知的に理解しているようです。実際には、破戒、無戒にひとしい日常生活をおくっているわけで、この点が、南方の上座仏教からきびしく批判されるころです。

教えていたきたいのですが、台湾の仏教寺院には、日本の仏教寺院のように、固定した戸数の檀家を擁し、檀信徒専用の墓地を設けているのでしょうか。台湾の仏教僧侶は、結婚しているのでしょうか。私の見るところ、どうも僧侶は結婚していません。

今更ながらおどろいたのは、ここ台北市に限定してみても、仏教徒専用の料理店（素菜）があちこちに点在していることです。この料理店は、魚や牛や豚などの肉を使わないいわゆる精進料

料理店です。もつとも台北市には仏教徒専用の料理店だけがあるわけではありません。牛肉を食べないヒンズー教徒のための料理店、豚肉を食べないイスラーム教徒のための料理店が存在しています。

日本でも、仏教の都といわれる京都、奈良、金沢などには、以前は、仏教徒のための精進料理店があつたことを先輩から伝え聞いたことがあります。今の日本では、ほとんど絶無に近いといつてもいいほどで、少くとも私は、一、二のお店しか知りません。もちろん、肉を使わない精進料理店はないわけではありません。それはもともとは精進という文字が示すとおり、仏教の戒思想にもとづいた仏教徒のための料理店であつたのでしようが、現在の多くの精進料理店は高額で高級な料理店に変容してしまい、けつして仏教徒のための料理店ではなくなつてしまつたようです。

ともあれ、台湾に素菜があるということは、台湾の仏教には、北方仏教、大乘仏教の戒が健在であることを示すものと言つてよいのではないでしようか。

ところで、僧宝・教団は、出家信者との共同体として成り立っているというのが、釈尊よりこのかた、北方仏教といわず南方仏教といわず、大乘仏教といわず、上座仏教といわず、その原則的あり方だとおもわれます。仏教は、仏、法、僧の三宝を要件として存在しているはずですから、僧宝の滅亡は、仏宝、法宝の亡滅につながつていきます。

日本仏教の場合、出家僧侶といわれる人びとの九九パーセントあまりが、結婚し家族をもつて在家化している今日、出家仏教の正統性だけを叫んでみても、その見とおしは暗い。さればと言つて、世俗化した出家僧侶の現状を肯定して在家宗学をとなえてみても、あまりにも在家

化した僧侶たちにとって、今さら積極的な意味はないでしょう。ただし、出家僧侶を否定すれば、僧宝は成り立たず、僧宝が成り立たなければ法宝、仏宝も成り立たず、三宝が成り立たなければ仏教教団は成り立たず、仏教は成り立ちません。在家だけの教団、あるいは出家だけの僧宝というものは原則として成り立ちません。

そこで、はなはだ矛盾した言い方になるかもしれませんが、在家化した僧侶の生活のなかに、どのように出家性を発揮し継承していくかということを模索していくのが、現代の日本仏教の伝統的既成教団の僧侶の課題、また寺院の課題だろうとおもいます。

それについて、私の脳裏にうかんでくることがあります。

韓国の曹溪宗の僧侶は、文字どおり、出家であつて家庭をもつていません。太古宗の僧侶は家庭をもつているそうです。僧侶が家庭をもつ

ているのは、日本植民地時代の日本僧侶の悪弊をうけつぐものだといううけとめ方があるようですが、それは今しばらくおいて、曹溪宗の僧侶は太古宗の僧侶を僧侶とは認めていない、軽蔑しているのではないかと私には思われたことでした。

さて、その太古宗の男僧は妻帯していますが、寺院で妻子と同居しているのではないそうです。妻子は、寺院の外部に住居を構えている。少くとも、妻は、寺院の外に在って夫の仏教活動を支援しているというわけです。これは、家族と寺院に同居して、事実上在家同然の生活をいとなみ、寺院がいつの間にか私有財産化しつつある日本仏教の現状に対して、一つの示唆を与えてくれるのではないかとおもいます。

また、私は、台湾や韓国の仏教寺院をおとずれておどろいたことがあります。それは尼僧さんたちのめざましい教化活動です。

韓国のS尼は、ソウル特別市に寺院を創建して多勢の身寄りのない子どもたちの面倒をみています。濟州島とアメリカのハワイ州に寺院を開創したと聞きました。一見して、おだやかなおとなしい、無口のS尼さんですが、実は超人的な教化力というか神通力を發揮しているのです。

台湾の北部のある市のK寺のR尼さんは、お師匠さんと協力して、寺院を建立したのですが、それだけでは満足せず、さらに進んで日本に留学してR大学で仏教学を修学しています。おどろくべき求道心です。

またT宗のGさんは、大学をつくりました。その広大なキャンパス、近代的な施設、設備、国際的な感覚を見聞して、ただただ圧倒されるおもいででした。まさに現代の奇蹟といってよいでしょう。

また、お聞きしたところによると、台南のK



国立台湾大学陳維昭總長と会談。左より黒田、東、陳總長、許博士。於總長室。

寺ではK尼さんが病院を設立、経営しているということでした。

このような例を、私は日本仏教界で知らないのであります。

近年、台湾では、尼僧さんが増加の一途をたどっているとのこと。しかし、日本では、尼僧さんは、逐年減少していく傾向のようです。韓国をふくめて台湾の尼僧さんたちの目ざましい教化活動、社会事業、教育事業、医療事業など各方面の活躍ぶりには、私は心底から敬服するものであります。

最後に、日本仏教の僧侶の一部の人びとは、仏教の思想、信仰にもとづき、大乘菩薩道の誓願の精神を発揮して、社会的、国際的実践をすすめています。

現時点での日本仏教は、その学術研究において世界の水準を維持しているかも知れませんが、その反面、仏教の教えをどのように現代に生か

していくかという点で、ほとんど無力に近いようです。また、禅宗は、社会にかけ離れたところで瞑想を重んじ、自分の悟りや救いを求めていると批判されることがあります。この非難には、私たちは、謙虚に耳を傾け、反省しなければなりません。

禅宗は、臨済宗、黄蘗宗、曹洞宗の三宗がその代表としてあげられるわけですが、私の所属する曹洞宗では、カンボジア難民の支援にあたる曹洞宗国際ボランティア会、東南アジア難民の支援や教育里親運動などを実施している藤本幸邦師、そして黒田武志師の横浜善光寺留学僧育英会などがあります。

黒田武志師は、私と大学、大学院が同期、同窓の間柄でありまして、そのようなご縁から、およそ四〇年の交流があり、育英会の理事として、一〇年まえの創立当初から、理事の一人として、いささかのお手伝いをさせていただいて



おります。

この十年間に、アメリカ、タイ、インド、スリランカ、フランス、イギリス、オランダ、韓国、中国、台湾、カンボジア、ドイツ、バンダラディシシュなど一六か国五六人の育英生が輩出しました。黒田武志師は「宗祖を通じて釈尊に帰る」という信念をいだいて、仏教の振興、世界の平和、人類の進運に貢献したいと決意し、世界的な視野をもつ人材の育成にとめていきます。宗派のちがいを超え、大乘、上座の枠を超えた大事業です。貴大学の葉阿月博士も育英会の顧問としてご協力下さっており、台湾からも育英生がでています。

葉博士は「中・日仏教三宝の差異について（国立台湾大学日本総合研究中心編著『中日文化差異研討會論文集』中華民國八十一年、国立台湾大学日本総合研究中心刊）と題する論文において、横浜善光寺留学僧育英会は、「国外へ留学に

出かける日本僧侶に奨学金を出さずだけでなく、更に外国（米、韓、泰、印等）から日本へ留学に来た僧侶にも奨学金を与えている」と紹介して、一定の評価を与えて下さっています。

私どもは、育英会の活動を一つの窓口として、今後とも、台湾の仏教徒、異教徒を問わず、多くの人びとと交流を重ね、おたがいの理解と協力をして親善と繁栄がますます盛んになっていくことを願っています。

## 五

以上、思いつくまま、お話をしてまいりました。演題に忠実にお話することが出来たかどうか、皆さまにご理解いただけたかどうか、懸念しています。まだいろいろ申しのべてみたいことがたくさんありました。

しかし、時間の制約もありますので、他の機会にゆずりまして、とりあえず、これでおわり

たいとおもいます。

ご清聴ありがとうございます。

## へ付 記

1、講演が終了して、聴衆の学生たちと質疑応答がなされたが、そこでいちばんとりあげられたのは、日本仏教の僧侶の生活の実態、意識に関してであった。それらを通じて、私は、台湾の若い人たちが日本や日本仏教に強い関心を抱いていることを知らされたのであった。

2、黒田武志老師と私は、かつてわが日本の曹洞宗の両大本山別院であった旧址をおとすれた。旧址は台北市の中心街、目抜き通りにあった。隣接する東和禅寺では一山あげての熱烈な歓迎をうけた。想起すれば、私が国民学校（小学校）四年生の夏、大東亜戦争（第二次世界大戦、太平洋戦争）は終結した。戦後の学校教育で、私たちは、日本はアジアの諸国を侵略し、植民地として支配し、非道の限りを尽くしたと教えられて来た。

後年になって、あらためて、私は、日本仏教とく

に禅宗の海外布教、台湾布教も、日本の植民地政策に沿って行われたところがあり、ご迷惑をおかけしたことを知らされた。このたび訪台して、台湾の人のびとの過分のご親切がことのほか身に沁みだ。私は、日本仏教が台湾で行ってきた過去のあやまちの点を十分に認識し、これからの台湾とのうるわしい交流のあり方を模索していきたいと念じている。

3、この講演要旨は、帰国後、録音テープを整理したものであるから、その主旨において基本的に変化はもちろん無いが、論旨をより一層明確にする意図のもとに成文化した。したがって、速記録的記録ではないことをお断りしておく。

（東 隆眞）

韓国・曹溪宗

## 新宗正に老天月下方丈を推戴

三月、横浜善光寺留学僧育英会設立十周年記念式典に来賓として出席のため来日された韓国・靈鷲叢林通度寺（曹溪宗）の老天月下方丈が、五月九日に行われた韓国・曹溪宗の元老会議（議長＝慧庵・海印寺方丈）において、満場一致で第九代宗正（任期五年）に推戴されること<sup>が</sup>決定。宗正の象徴である拂塵（拂子）と拄杖子を奉呈する宗正推戴式が五月十三日午前十時、曹溪寺（ソウル鍾路区）で挙行された。

老天月下方丈は、性徹和尚とは違った宗正像を示すものと期待されている。性徹和尚はまれ

に見る禅僧で、一生涯、一切の宗団行政に関与しなかつたことで知られた。宗正に推戴された後も、宗内外で「畏敬」の対象であった。

これに対し、老天月下方丈は総務院長等宗団の主要役職を努めた実務肌で、宗徒や国民にも親近な宗正になるものと見られている。

佛教界では、老天月下方丈の人柄を示す多くの逸話がある。

老天月下方丈の住居である通度寺正備殿には垣根に出入りの門がなく、出入りが自由で、訪問客には誰にでも丁重に応対し、建物の外まで

訪問客を送る。門中の最高元老でありながら、通度寺の構内食堂で一般の和尚らと共に食事をすする。侍者らが止めるにもかかわらず、清掃、洗濯も自ら行う。また四月には、曹溪宗改革会議参加のためソウルに出向いた際も、高速バスという大衆交通手段を利用した。

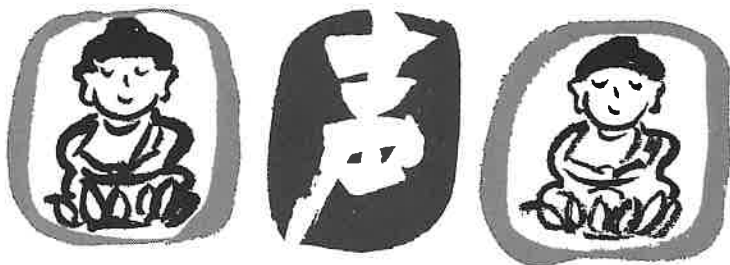
しかし老天月下方丈はまた、宗団の存亡時には強い決断力と実行力を発揮して、中心的役割を果たしてきた。

五〇年代に比丘・妻帯僧間の対立が始まった時、青潭、暁峰、東山、金鳥和尚らと共に、比丘代表五人で宗団浄化を主導。七〇年代の曹溪宗団紛糾の際にも、改革勢力側の代表人物として活動した。徐義玄前総務院長三選で噴出した今回の宗団紛糾にも、早くから長期政権の問題点を指摘して、門中が改革に参加するように指導した。老天月下方丈が改革会議議長に続いて宗正に推戴されたのには、宗団内に培ったこの

ような信望が作用したものとみられている。

老天月下方丈は五月八日、記者（韓国・釜山金貞玉記者）に対し「まだ正式に決定されていないので語ることは難しい」としながらも、宗正の役割とは「宗団が正しく運営できるように、秩序と方向を与えること」と語り、また改革問題に関しては、「一、二人の欲と長期政権から問題が発生したが、彼等が退いたので、秩序を取り戻すことに大した困難はないだろう」と樂觀していた。

老天月下方丈は、忠清南道扶余出身。十八歳の時、金剛山楡岾寺で出家。一九四〇年三宝寺刹中の靈鷲叢林通度寺で九河和尚より比丘戒を受け、その後住職、祖室等を経てからも通度寺を守った。梵魚・徳崇門中に次ぐ靈鷲門中は老天月下方丈の宗正推戴を長く待ちわびていたことである。



黒田老師の姿に釈尊の姿が  
重なりました

山口県 松岡睦男老師

黒田ご老師におかれましては、寺務、檀務、留学僧育英会の運営、ご指導等、併道の布教・伝導に日夜ご多忙のことと、そのご活躍のお姿を想像いたしております。『法燈は海を越えて』という素晴らしいご本、一読、感動のひと言につきる次第でございます。私自身の感想を全部述べれば、駄文をもって冗長煩雑なものとなり、紙数がかさむばかりですが、序文にある駒沢大学

総長桜井先生や、東隆眞師が述べておられる賞賛・尊敬のお言葉とまったく同様で、ただただ感服のほかありません。昭和六十三年十二月二十二日、横浜に住んでいた実兄の葬儀に導師の来訪をお願いすべく善光寺を訪れ、貴師との出合いの佛縁を得ました。私も七十年前、片田舎の禅寺に生を受け、二十歳頃までそこで生活をし、寺務、檀務の手伝いもし、多くの僧侶の方々に知己を持ちました。その後、戦時教育の事情もあり、海上勤務の道歩み、無事勤めを終え、今は地域社会のために奉仕し、ボランティア活動に

従事しております。

このたび、『法燈は海を越えて』を拝読して、貴師がこの世に生を受けて今日に至るまでの越し方、ご苦勞、ご活躍の詳細を知ることができ、大いなる感動と尊敬の念を抱いた次第でございます。

私のもう一人の実兄もアメリカの地で五十年、布教・伝導に献身いたしました。しかし、現在は老齡のためシカゴで静養し、布教活動を中止しております。彼の生涯の中でも、前記のような貴師に備わっている条件の一つでも微笑みかけ、幸いしてくれていたら、彼の活躍の成果も今

少し上がっていたのではないかと思われれます。

どうぞ今後とも百歳、いえ、百五十歳の先までも、現在の尊くかつ崇高なお仕事を続けていかれるよう、心より祈願いたす次第でございます。

宗教は全世界が注目

鈴木 做先生

当方は当方学院にて数年来何度が拝顔致し、益々の御活躍を心からおよろこび申し上げます。

戦中に早大在学中沢木興道師に接し、又十数年前はパリ

にてご活躍中の弟子丸泰仙師にもお会いした事があり、又今般は貴師の尊い御精進に巡り会う貴縁に深く喜びを感じております。

佛教は印度から中国へ、中国から日本へと伝えられ、日本佛教としての大いなる基礎をなし、再び日本佛教が東洋から世界へと伝えられる事は非常に重要な意義がある事と存じます。

一国に於ける運営のものは政治と経済と宗教であります。ことに宗教は全世界の大きな注目の焦点になっております。その根本の教え、智慧と善悲は世界の宗教として十分に応

えられる内容を蔵しているものと信じます。

昔のシルクロードの求道僧の如く、ご苦難の多い険しい道のりと存じますが、今後益々の御活躍をお祈り申し上げます。

### 大自然みな神仏 人間もその一部

滋賀県 今出川行雲老師

今年には善光寺さまには開創二十五周年の年とか。五月には記念式典を挙行される由、おめでたく、心より佛恩に感謝の念をいだいております。

私どもも、五月に比叡山の

四祖慈覚大師の生誕千二百年の年で、いろいろと企画しております。『平和と共生の願い・地球コンサート』というスローガンをかかげ、宗教宗派の垣根を越えて、山川草木悉皆成佛——大自然の中に神佛を觀じ、人間もその一部として大自然に調和して、生かされていることに感謝しよう……こんな合言葉のもとに二月にもコンサートを行いました。が、今回も、東京ドームで、三万〜四万人を集めて行う計画をしています。今は実行委員会の一人としてこれに追われています。

黒田先生は私どもと異なり、

お一人で素晴らしい浄行の数々をこなしてこられました。今年にはNHKの好意で、比叡山が「行く年来る年」で紹介され、これも若干の私の仕事としてスタートしました。先生の域に少しでも近づけるようがんばっているつもりですが、浄行の面も私事の信徒面もまだまだ……これよりご教導たまわりたく伏してお願ひ申し上げます。





記念出版『法燈の国際化をめざして』（法燈は海を越えて）

## 法燈は海を越えて

『中外日報』 4月23日付

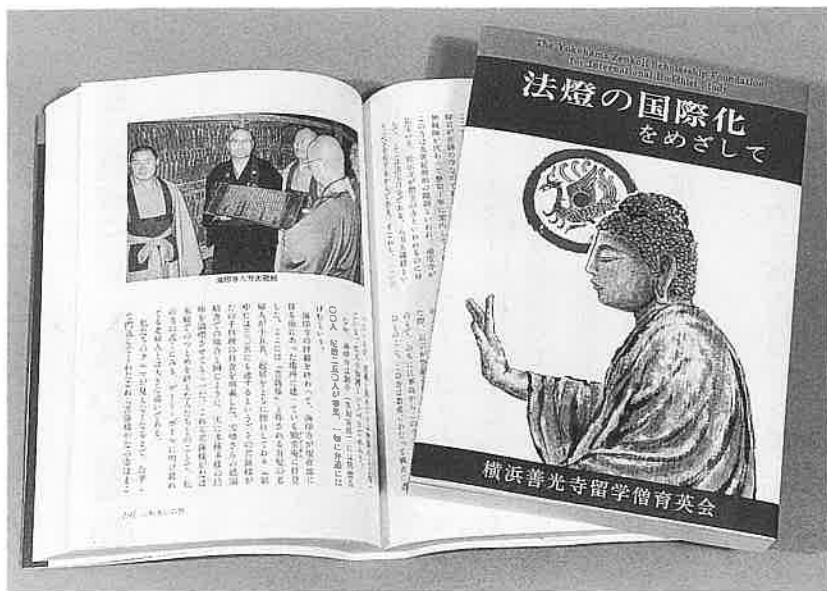
横浜善光寺留学僧育英会（黒田武志理事長）

は設立十周年記念事業の一環として、このほど『法燈の国際化をめざして』（『法燈は海を越えて』）を出版した。

横浜・善光寺の開創十五周年を期して、報恩行の一端として黒田住職が始めたこの育英会も十年の歴史を刻んだ。その間、日本の若き僧侶を海外に派遣し、また海外から日本への留学僧を受け入れ、資金援助を行っている。また黒田理事長、佐藤俊明常務理事（千葉県柏市・龍光

寺住職らは関係各国を歴訪し、視察と交流を深めてきた。

同書は十カ国にのぼる関係国の訪問記を集録したもので、序章を東隆眞理事（駒沢女子大学副学長）が執筆し、第一部に黒田理事長の国内とパリでの講演を掲載。間にインド、スリランカ、ミャンマー、タイ、カンボジア、中国、韓国、の見事なグラビアをはさんで、第二部に佐藤常務理事による「ふれあいの旅——関係十カ国訪問記」などを収めている。巻頭に駒澤大学



の櫻井秀雄総長、タイ国ワット・パクナム住職のプラ・タム・パンヤー・ボデー大僧正が祝辞を寄せている。

訪問国はインド、アメリカ、タイ、韓国、台湾、ミャンマー、カンボジア、スリランカ、マレーシア、中国の各国。カラーグラビアは、アジアを舞台に活躍する行動派の写真家として知られる田村仁（スリランカ、韓国を担当）、松本栄一（インド、中国を担当）、樋口英夫（ミャンマー、タイ、カンボジアを担当）の各氏が自身の作品を提供。佐藤常務理事の軽妙な筆致で世界行脚の内容と育英事業の成果が記録され、まさに「法燈は海を越えて」の実証録となった。

A 五判・三二〇ページ

頒布価 二、五〇〇円

記念出版『法燈の国際化をめざして』（法燈は海を越えて）

## 法燈は海を越えて

『中外日報』 4月23日付

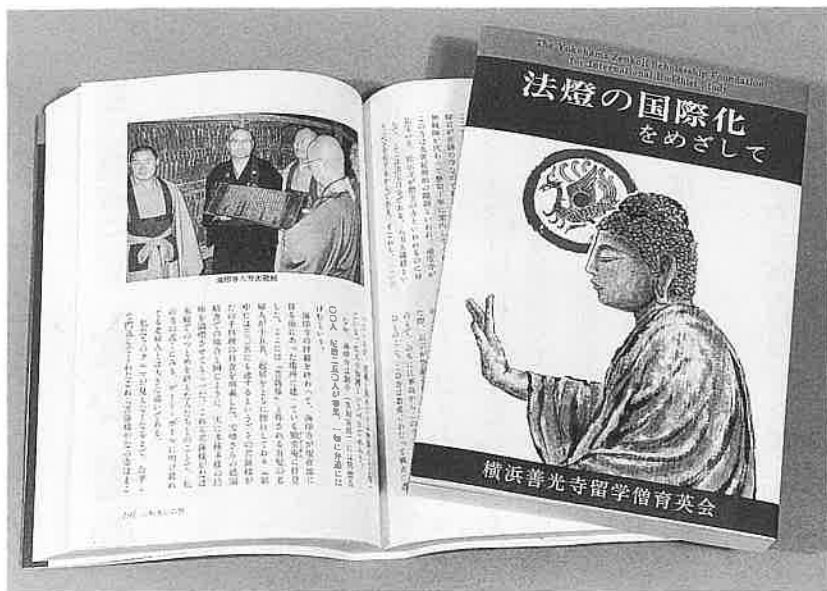
横浜善光寺留学僧育英会（黒田武志理事長）

は設立十周年記念事業の一環として、このほど『法燈の国際化をめざして』（『法燈は海を越えて』）を出版した。

横浜・善光寺の開創十五周年を期して、報恩行の一端として黒田住職が始めたこの育英会も十年の歴史を刻んだ。その間、日本の若き僧侶を海外に派遣し、また海外から日本への留学僧を受け入れ、資金援助を行っている。また黒田理事長、佐藤俊明常務理事（千葉県柏市・龍光

寺住職らは関係各国を歴訪し、視察と交流を深めてきた。

同書は十カ国にのぼる関係国の訪問記を集録したもので、序章を東隆眞理事（駒沢女子大学副学長）が執筆し、第一部に黒田理事長の国内とパリでの講演を掲載。間にインド、スリランカ、ミャンマー、タイ、カンボジア、中国、韓国、の見事なグラビアをはさんで、第二部に佐藤常務理事による「ふれあいの旅——関係十カ国訪問記」などを収めている。巻頭に駒澤大学



の櫻井秀雄総長、タイ国ワット・パクナム住職のプラ・タム・パンヤー・ボデー大僧正が祝辞を寄せている。

訪問国はインド、アメリカ、タイ、韓国、台湾、ミャンマー、カンボジア、スリランカ、マレーシア、中国の各国。カラーグラビアは、アジアを舞台に活躍する行動派の写真家として知られる田村仁（スリランカ、韓国を担当）、松本栄一（インド、中国を担当）、樋口英夫（ミャンマー、タイ、カンボジアを担当）の各氏が自身の作品を提供。佐藤常務理事の軽妙な筆致で世界行脚の内容と育英事業の成果が記録され、まさに「法燈は海を越えて」の実証録となった。

A 五判・三二〇ページ

頒布価 二、五〇〇円

記念出版『法燈の国際化をめざして』（法燈は海を越えて）

## 私の読書日記 女心、男心、仏心の書

歴史学者 木村尚二郎

『週刊文春』6月2日発行／第21号より転載

（前文省略）

「ぎやーてーぎやーてー はーらーぎやーてー  
はらそうぎやーてー ぼーじいそわか」  
と、亡くなった父は幼くして死んだ妹のため、  
いつも仏壇に向って「般若心経」を唱えていた。  
その意味は、「みんなて手を取り合って、悩み苦し  
みのないすばらしい世界へ行こう」というこ  
とだという。

こう教えてくれる横浜善光寺住職、黒田武志  
師が主宰する留学僧育英会『法燈は海を越えて』

（平成六年四月 成寿山善光寺 二五〇〇円）

は、アメリカ、ロサンゼルス禅センターでの首  
座法戦式の模様を伝えて、まことに興味深い。  
首座とは一山の最高位のこと、ここでは、父  
親が日本人、母親がポルトガル人の女性であつ  
た。彼女に対し、アメリカ人・メキシコ人・ポ  
ーランド人その他さまざまな人が挑戦する禅問  
答が、法戦式である。日本ではサンプルでやり  
とりする形式的なものであるが、ここでは英語  
での真剣勝負であつた。

問者 ……夕べに兎を食することあらば、その料理法いかん。

首座 われ知らず。

問者 首座の口辺に兎の油あり。それでも知らぬか。

首座 われ汚れ放題。体中に汚れ充滿せり。

問者 兎の味いかが。

首座 他と変わらさず。

問者 ……われ、手に薬あり。真偽、試してみらるや否や。

首座 不要。

問者 いかに治癒するや。

首座 まず、汝自身を治癒すべし。

問者 終身、病める者に、いかなる提言ありや。

首座 病、治るといえども、いまだ病めると

ころなしといわず。

問者 尊答を拝謝し奉る。

首座 May your life go well. (これは、珍

重・万歳”の訳)

つぎつぎと発せられた三十五人の問いに対する、首座の応答ぶりは流石である。いずれ、

「日本はアメリカから禅を輸入するようになるのではないか」(佐藤俊明)と、本書は真面目に心配する。アメリカもいま、悩みが深いのであらう。

今回のタイトルは、「女心、男心、仏心」としよう。



記念出版『法燈の国際化をめざして』（法燈は海を越えて）

## 『法燈は海を越えて』の反響

たくさんのお便りありがとうございました。

生き生きとしたすばらしいご本

東京都葛飾区 林 博明先生

このたびは、ありがたいご本『法燈は海を越えて』を頂戴いたしました。恐縮しております。十周年にあたり記念出版されたご苦勞、さぞたいへんであったろうとしみじみ感じております。五十七名を派遣し、十七カ国に達したということは、言葉ではいい尽くせないほどのすばらし

い国際交流であります。黒田大圓方丈の素直な心・ありのままの心が、今日の出逢いとなり、歴史を物語っているのですね。

とにかくご本の各章がすばらしい。ご老師、諸先輩のご体験の生き生きとした文章表現。写真も美しい。とくにクシナガラ朝日の昇る瞬間のシャッターはみごとです。毎日大事に拝読させていただいております。

山門の繁栄と留学僧育英会のご発展、ご家族のみなさまのご多幸を祈念申し上げます。

中中中中中中

## 釈尊に相通ずるご聖業

山形県鶴岡市 阿部 全也老師

『法燈は海を越えて』—誠に貴重な記録、慎んで拝読いたしました。省みますれば今日までの経過は、宗祖を通して釈尊に還る」という、貴台の崇高なるご信念、強いて申し上げれば、強い執念の結晶ではなからうかと、敬服合掌あるのみです。

十年におよぶ辛苦の開拓は、いよいよ開花を迎えることと存じます。記録を拝見いたしますと、育英の恩恵にあずかった留学僧はすでに五十七名にもおよんでおりますが、今後はその果実の熟成期を迎えられるわけです。と同時にまた次々と新しい種子の育成を手がけなければいけないわけで、誠に終わりのないご聖業と推察いたします。二千数百年前、釈尊がインドを行

脚教化に精進なされた故事と相通ずるものが感じられます。誠に貴い行事、心からそのご発展を祈念いたします。

## 居ながらにして各国の 佛教事情がわかって

中中中中中中

東京都立川市 伊藤 勲殿

今日まで各国に派遣された留学僧の数も五十名を越え、その活動の場が世界十数カ国におよんでおられるとのこと：佛教を基軸とした人類至福・世界平和を願われるお心の深さを感じさせていただいております。今回、『法燈は海を越えて』によって、これまでに派遣なさった国々を巡られての各国の佛教事情を、家に居ながらにして彷彿させてもらえ、新たな知識を得る思いで興味深く拝読させていただきました。貴重な資料として長く大切に保存させていただきます。誠にありがとうございます。

中中中中中中

はるかなる佛蹟に  
親しみが感じられて

東京都大田区 水野弥穂子先生

このたびは立派なご本、ありがとうございます。美しいグラビアの数々にも、ずいぶんおなじみにならせていただきました。はるかなる佛蹟が親しくなりましたのも、貴誌のおかげでございます。

新たな感動を受けました

中中中中中中

滋賀県愛知郡 佐々木教悟先生

いろいろとご苦勞の積み重ねにより実績をあげられつつ今日の成果を得られましたこと、同慶に堪えません。ご本の中の「現状に至る辛苦と将来への抱負」なる一文を読ませていただき、新たな感動を受けました。

中中中中中中

実に尊く、貴老師ならではの

愛知県知多郡 神戸 信寅先生

『法燈は海を越えて』には、育英会の悲願が開花していく様子が書かれています。実に尊く、貴老師ならではのと拝察しているところです。

一冊の中に半生が凝縮

中中中中中中

東京都世田谷区 田上 太秀先生

一冊の中に、貴殿の半生のご苦勞とご活躍が細かに記録され、将来の展望も述べられており、敬服いたしております。

中中中中中中

一人の人間がこんなに多くの偉業を

佐野市 若林 秀 殿

『法燈は海を越えて』を読ませていただき、

一人の人間が一生のうちにこんなに多くの偉大な仕事をできるんだと驚嘆するとともに、自分の無力さを反省させられました。

梓の拡大、ありがとうございました

神奈川県川崎市 新井 勝龍先生

海外派遣にとどまらず、外国から日本への留学僧も受け入れるべく梓を拡大されたのは、各佛教大学への留学僧が増加している現状に相応するもので、佛教の国際化上、誠にありがたいことと感謝申し上げます。

中中中中中中

貴育英会に助けられています

東京都世田谷区 吉津 宜英先生

『法燈は海を越えて』ありがとうございました。東京など都心の、異常ともいえる生活環境の中で、駒沢大学の研究員たちは、貴育英会からの奨学金によって本当に助けられております。ありがたいことでございます。これからは、大先輩なども、良い奨学金が出せるかどうかで、生き残れるかどうかが決まることでしょう。ご本を読み、学ばせていただきしたいと思います。



# 読者のために

思わぬ不幸。でも佛のご加護を信じて：

東京都港区  
山口 修先生

いつも『成寿』を興味深く拝読させていただいております。春季号に載せられておりました佐藤俊明先生の「中国八日間の旅」という紀行文は、私自身も何度か同じ経験をしているため、まさしく同感というところでした。私も昨年九月、上海より普陀山に渡り、寧波、天童寺、阿育王寺、さらに天台山に二泊という旅をいたしました。十月には西安五泊の旅を行い、一日は長安

の古刹を巡拝いたしました。そんなふうにな元氣いっぱいだった私ですが、この頃、自覚まったくなきまま肺癆に侵されており、十二月から一月末まで入院、この間二回の手術を受けるはめに陥りました。術後の経過は順調ですが、しばらくは通院せねばなりません。しかし体調はこうしてお手紙を書けるほどに回復しました。思いもかけぬ不幸にまわられたわけですが、み佛のご加護を祈りつつ、再び社会生活に復帰すべくがんばっていきたいと思います。

毎回驚かされる  
『成寿』

東京都葛飾区  
林 博明先生

毎回、『成寿』のすばらしい  
ご文章、写真を拝見させてい  
ただき、アツと驚かされてお  
ります。今回二十二号は、表  
紙の色の新鮮さを感じました。  
また、中国太白山天童寺を歩  
く写真も美しく、こんな所も  
あったのかと再度思い出しま  
した。天童山景德寺と如浄禪  
師、興味深く読ませていた  
きました。厚く御礼申し上げます。

みごとに人材教育  
頭の下がる思いです

東京都世田谷区  
芦辺 鎌禪老師

たいへんご立派で、中身の  
濃い、本当に読みごたえのあ  
るご本『成寿』、じっくり拝読  
させていただいております。  
天童寺のカラー写真にはとく  
に驚きました。私も一度拝登  
いたしました。私も一度拝登  
のすばらしさは見落としてし  
まったようでございます。で  
すからこのたびのお写真でた  
いへんよい勉強をさせていた  
だきました。

また、育英会の方もますます

すご盛んのご様子で、平素の  
ご教化の上にもみごとに人材教  
育、本当に頭の下がる思いで  
毎回敬服申し上げます。

世界を千年単位で  
眺めれば：

神奈川県横浜市  
村石 恵照先生

『成寿』二十二号の読者  
のたよりで、本間康一郎氏  
(大法輪編集長)のお便りを見  
て、ご縁の不思議を感じてお  
ります。実は学生時代：三十  
年ほど前になります。私は  
本間氏といっしょに総持寺の  
摂心会に参加したことがあつ  
たのです。とても嬉しい気持

ちになりました。

有為転変の世界ですが、千年単位で歴史を觀れば、世界は仏教的認識に向かつて静かに生成していることが感じられます。きつと黒田師もそのような大きな眼差しでものごとをごらんになっておられるのでございましょう。ますますご活躍を念じ上げております。

### 快適に坐に専念

東京都立川市  
坂井 司様

黒田武志老師様には御元気で相変らず御活躍のことと

存じ上げます。誠に残念ながら、五月三十日の善光寺記念式典に出席できず、お詫び申し上げます。

実は五月二十八日早朝に帰国しましたが、月末までには非処理しなければならぬ急用二件発生しまして、祝典出席断念せざるを得なくなつた訳です。

さて、マレーシアの方、即ちリングム氏のメタ・ビラも大分整備されてきました。御老師御手植えの木も益々成長、今や三メートルを越す高さです。クテイ（独居禅室）の一つは改築されその前を約三十メートルばかり、経行の為の

舗装された小道も出来、更に延長予定です。六基ばかり鉄製の坐禅台が樹木に設けられました。月例の佛教団体の会合では参加者に喜んで利用されています。今回も私は一カ月余り行つて参りましたが今は快適に坐に専念しております。

さて来訪の佛教会の若い人を対象に禅に關し一筆書きしましたので御送付申し上げます。

合掌



生の終わりのときに  
み佛に救われるような  
生活を

神奈川県横浜市  
岡田しな子様

善光寺さまには、主人亡き  
あとより二十年の長い月日  
をお世話になってまいりました。  
なのに何のご奉仕することも  
なく、心苦しい限りでござい  
ます。平素から誠に信仰心薄  
い罪深き私に、いつももった  
いなきお心遣いをいただき、  
ありがとうございました。ござ  
いません。私も、残り少ない  
生の終わりのとき、み佛のみ  
手に救われたく、佛さまに帰  
依する生活を一日一日してい

かなければと思う今日この頃  
でございます。

辛さが大きいほど、次の  
困難を乗り越えられる

大阪府  
金田 孝子様

『成寿』の中の東郷さまの  
「出逢い」、前号とともに感銘  
深く読ませていただきました。  
私の夫は、先代ナリス社長さ  
まに助けていただき二十年、  
物心ともに本当にお世話にな  
り幸せな人生を終えました。  
精神的にも、すばらしいさま  
ざまなことを教えていただい  
たようでございました。たと  
えば困難にぶつかったときも、

「なぜそんなに辛いことをす  
るの?」

との私の問いに、

「辛いことをやり遂げたとき  
の快感は、やったものでない  
とわからないよ」

と微笑んだり、

「辛さが大きければ大きいほ  
ど、困難に出くわしたときに、  
あのときのことを思えば、乗  
り越えられる」と思うことが  
できる」

といったり、そんな言葉な  
どが思い出され、あらためて  
感謝の思いを大きくいたしま  
した。

善光寺さまの  
ご縁がありがたくて

神奈川県横浜  
市  
國広敏郎・良子様

先月はお彼岸前後の最もお忙しいところを亡き母の納骨式と七回忌の法要を誠にありがとうございました。おかげさまで無事納骨することができました。

それにいたしましたとしても、故郷の観光資源としてのほかは、活きた役割を失ったかに見える寺に比べ、善光寺さまのように活き活きとした役割を果たしているお寺にお仕えすることができ、私どもたいへん

幸せです。コミュニティと、そこで生活している人がますます発展されますことをお祈り申し上げております。

\*

このたびは、黒田方丈さまにおめもじさせていただきました上に、いろいろとお話を賜り、ほんとうにありがとうございました。心安んじて帰宅させていただきました。方丈さまはじめ、たくさんの御僧により、もつたいないような法要をあげていただきました。厚く厚く御礼申し上げます。善光寺さまとのご縁をいただきまして、夫ともどもあらためてこの上なく嬉しくありが

たく感謝申し上げます。私もどうしても一緒に御礼申しあげたくて、一筆したためさせていただきました。

たくさんのお便りありがとうございました

★黒田ご老師さまのお話をお聞きするたびに、ご活躍に感動しております。私も還暦を迎え、これからの人生、如何にと考えておりますが、一度ご老師さまにご教示いただきたいと思っております。

神奈川県 波多野牧通様

★『成寿』二十二号では、私にとりましても思い出の多い中国・太白山天童寺や、ポロブドール・トラジャなどの特集、嬉しくありがたく拝読しました。

東京都 久保田展弘様

★天童寺の写真、本当にすばらしいですね。私も一度、行ってみたかったです。

東京都 矢澤 利彦先生

★内容豊富で立派な『成寿』、いつも恵光寺の方に回覧いたしまして、多くの方に読んでいただいております。

栃木県 小川 順様

★中国太白山天童寺のみごとなカラー写真に、大本山永平寺を想い、感銘を受けました。

神奈川県 木暮 子郎様

★天童寺の写真と記事、懐かしく拝読させていただきました。毎号、資料として保存させていただきます。

『在家仏教』編集部

内藤喜八郎様

★このたびの『成寿』はまことに圧巻でありました。尊い布教がありがとうございます。

東京都 井高 帰山様

★毎回『成寿』を興味深く拝

読させていただいております。とくにご住職の東奔西走のご活躍、留学僧の方々のお便り、伊藤三喜庵先生の佛画等に心温まる思いをいたしております。佛教者の国際交流がますます盛んになりますことを期待申し上げます。

桜井 雄三様

海外でも  
がんばっています！

小島の一角から  
誠意をこめて

葉 阿月先生 台湾

黒田ご老師さまをはじめ奥さま、皆々さまには、相変わらずご清栄にてご活躍のことと嬉しく存じます。このたびお送りいただきましたご教示ならびに貴育英会留学僧の近況を見て、ご立派なご活躍に驚くばかりでございます。こ

の小島の一角から、誠意をこめて、貴寺のますますの発展をお祈りいたしますとともに、世界の多くの留学僧…とくにこの小島と南大陸の留学僧に對してご懇切なお世話をいただきましたこと、衷心深く感謝しております。どうぞ、この小島へご光臨くださいませよう、心からお待ち申し上げますております。

元気でやっています

松本文彦・純子様 イラン

イランの生活にも慣れ、元気でやっています。来年の広

島のアジア大会で日本に行くことが決まりました。おかげさまで今年にはアジア五位に入り、その上イスラム圏大会で優勝し成績は順調です。当地での滞在も延長され、帰国は一九九五年になります。お逢いできる日を楽しみにしております。

私のいちばんのおともだちです

マナット・ウィモンラット様 タイ

クロダさん、あなたはおげんきですか。私はクロダさんがたいへんすきです。あなたは私のいちばんのおともだち



です。私はたいへんうれしいです。あなたはいつタイにきてくれますか。ワタシにてがみをかきください。あなたのかぞくもあなたもおげんきですか。私のかぞくも私もげんきです。私のかぞくのしゃしんをクロダさんにあげます。

ではおげんきでかつやくしてください。クロダさん、さようなら。(原文ママ)

サハラ砂漠の  
幻の町にて

セネガル共和国  
伊藤 博先生

マリのティンバクトウは、シルクロードと同じく重要な経済文化の交流点でしたが、今ではサハラ砂漠の幻の町という雰囲気です。砂ぼこりのため、午後四時には太陽の光が薄暗くなるほどです。隠れクリシタンのように回教徒の迫害を逃れて、断崖絶壁に住み着いたドゴン族の部落も圧

巻でした。が、そこに行くのがまた死ぬほどの苦しみ。とにかく、三週間の西アフリカ旅行も無事終わり、ホッとしています。

お便りを募集します

いつも温かいお便りをありがとうございます。成寿では読者のページを心ふれあう豊かなものにしていきたいと考えています。みなさまからの楽しいお便り、ご意見、ご感想をお待ちいたしております。

秋彼岸法要の

お知らせ

九月二十一日(水)に善光寺秋彼岸法要を執り行います。法要導師は山主黒田武志住職、法話は千葉県柏市龍光寺住職佐藤俊明老師です。なお、法要は午前と午後二度にわけて行いますので、なるべく指定の時間にお出まし下さいますようお願い申し上げます。

総和会東北大会で

黒田住職が講演

六月二十三日・二十四日に岩手県一関市で開催された総和会東北大会で、黒田武志住職が「法燈は海を越えて」と題して講演しました。大本山總持寺から齋藤信義監院老師、宗務総長伊東盛熙会長が来賓として出席し、約百六十人の参加者の中には若い僧侶も多く盛況で

した。村上春雄大会会長は、「現場で実際に活動している方のお話を聞こうと、横浜善光寺の黒田さんと呼んだ。善光寺の育英事業は本来、宗門としてやるべきことで、それを一カ寺でやっておられるのは大変なこと。その実践現場からの生の声を若い人にも聞いてもらい、有意義でした」と語りました。

奈良康明教授が

駒澤大学学長に就任

駒澤大学では阿部肇一前学長の辞任に伴う学長選挙で七月一日、無競争となっていた佛教学部の奈良康明教授(64歳、善光寺留学僧育英会理事)に対する信任投票が行われ、圧倒的な信任を得て当選しました。

奈良新学長は昭和四年十二月二日生まれ。東京大学大学院人文科印度哲学修士課程卒。

カルカッタ大学大学院比較言語科博士課程終

了。文学博士（東京大学）。昭和三十六年四月から駒澤大学に奉職、副学長を経験。

### 東 隆眞先生、

### 台湾の学会へ

横浜善光寺留学僧育英会理事・東隆眞博士（駒沢女子大学教授）は、台湾の華梵文科工科大学（台北県石碇郷）の招聘をうけて、同大学主催第九回国際仏教教育研討会で「仏教主義総合学園の理念と現実―わが駒沢学園の場合―」と題する研究講演を行った（七月十七日）。華梵文科工科大学は天台宗の尼僧・暁雲法師が創立した仏教系の大学である。

（本誌P112を参照して下さい。）

### 韓国・曹溪宗通度寺で

### 善光寺留学僧育英会国際講演会

来る十月二十四日から二十六日に、黒田理

事長をはじめ、古田紹欽博士（鎌倉・松ヶ岡文庫文庫長）、常務理事の佐藤俊明老師、理事の東隆眞先生の四氏が訪韓します。去る三月末に行われた善光寺留学僧育英会設立十周年記念式典に、韓国・曹溪宗通度寺の老天月下方丈が来賓として参列、記念講演をしていた答礼と、五月に老天月下方丈が、曹溪宗宗正（管長）に就任された祝賀のため赴くもの。二十五日（火）には午前八時から通度寺本堂において、善光寺留学僧育英会国際講演会が開催されます。





# ご寄付御札

〈育英会寄付〉

黒田 俊雄殿	三百万円	大八木春邦殿	十万円	伊串 昇頭殿	五万円
戸田慶次郎殿	五十万円	瀬之間政勝殿	十万円	増山 静江殿	五万円
梅田 文丈殿	三十万円	実浄 文英殿	十万円	黒田 能勝殿	五万円
韓国・老天月下殿	二十万円	赫多 正門殿	七万円	鳥居 観音殿	五万円
越石 周平殿	二十万円	佐々木提伝庵殿		須田 道輝殿	五万円
中村 淳子殿	十四万円	龍澤 武雄殿	六万七千五百十三円	小坂 一韻殿	四万円
金子 二郎殿	十万円	島田 崑久子殿	六万円	沖田 玉映殿	三万円
宮林 昭彦殿	十万円	石川 孝禅殿	六万円	宮田 林産殿	三万円
丹羽 徹象殿	十万円	山田 康夫殿	五万円	横溝 順一・福島芳夫殿	三万円
錦戸 新観殿	十万円	西田 正法殿	五万円	石川 征一殿	三万円
一適 隆信殿	十万円	久保 謙是殿	五万円	大道 晃仙殿	三万円
北尾 武殿	十万円	神奈川第一布教師会殿		小林 長松殿	三万円
服部 恵子殿	十万円	山野井生花店殿	五万円	青木 重殿	三万円
萩原 高一・元子殿	十万円	藤井 昭雲殿	五万円	亀野 哲雄殿	三万円
南沢 道人殿	十万円	浅井 恒道殿	五万円	中野 良教殿	三万円
		柴田 秀晃殿	五万円	今泉 源由殿	三万円
				山本 龍廣殿	三万円
				佐藤 憲雄殿	三万円

安藤	康哉殿	三万円	大金きよみ殿	一万円	岡田	敏夫殿	一万円
三村	佛天殿	三万円	明光堂殿	一万円	椎名	宏雄殿	一万円
芦辺	鎌禅殿	三万円	山田和雄殿	一万円	黒河内貞子殿		一万円
鈴木光太郎殿		三万円	國廣敏郎殿	一万円	内海忠男殿		一万円
佐瀬道淳殿		三万円	狭間苑枝殿	一万円	奥村公規殿		一万円
雲藤義道殿		三万円	吉村新殿	一万円	半澤夕キ殿		一万円
内山款偉殿		三万円	西山廣宣殿	一万円	大森文兵殿		一万円
櫻井和子殿		三万円	太田好信殿	一万円	柿沼幸子殿		一万円
鈴木たか殿		二万円	太田宏殿	一万円	伊藤幹雄殿		一万円
昼間光威殿		二万円	福井周道殿	一万円	内田京子殿		一万円
金田孝子殿		二万円	山田弘子殿	一万円	辻稲男殿		五千円
博林津龍殿		二万円	梅津好司殿	一万円	井上葉智殿		五千円
敦岡白鳳殿		二万円	中畑勝善殿	一万円	池野清治殿		五千円
大場満洋殿		二万円	馬場俊治殿	一万円	豊崎洋志殿		五千円
波多野収通殿		二万円	木澤一郎殿	一万円	吉見圭介殿		五千円
越前竹子殿		二万円	山田茂徳殿	一万円	吉岡泰一殿		五千円
岩井文字殿		二万円	伊藤博殿	一万円	入江実殿		五千円
伊藤幹雄殿		二万円	井本博之殿	一万円	柳川清司殿		五千円

〈成寿賛助〉

北村	輝雄殿	五千元	渡辺	嘉子殿	一万円
高田	亮殿	五千元	能光	寺殿	一万円
熊喜一郎殿		三千元	椎名	宏雄殿	一万円
山下	勝代殿	三千元	山崎	康弘殿	一万円
岩佐	幹夫殿	三千元	飯田	利行殿	一万円
今	壽殿	三千元	島田	崑久子殿	一万円
渡辺	通夫殿	三千元	徳山	暉純殿	一万円
藤村	正信殿	三千元	伊藤	真愚殿	一万円
			石井	修道殿	一万円
			渡辺	孝章殿	一万円
			落合	一惠殿	一万円
奥村	公規殿	十万円	井出	聖泉堂殿	一万円
三村	佛夫殿	二万円	鈴木	光太郎殿	一万円
円光	寺殿	二万円	伴鉄	斗殿	一万円
原	清殿	二万円	海雲	寺殿	一万円
安藤	嘉則殿	二万円	中村	定典殿	一万円
吉岡	博道殿	二万円	村上	博中殿	一万円
新井	勝龍殿	二万円	島津	源之殿	五千元
田中	孝学殿	一万円			

船附 理人殿 五千元  
 太田 好信殿 五千元



ドイツ  
佐藤 誠司

私がライプツィヒに参りましてからはや四カ月が過ぎ、少しずつこちらの生活に慣れてきたように感ぜられます。月曜日から金曜日の午前中は大学付属のドイツ語コースへ通っております。火曜日の午後にはケルバー教授の授業に出席、題材はいわばネパールの「すごろくゲーム」です。このゲームにいかなる仏教理論、シンボル性が潜んでいるかを見出すことが、この授業の目指すところです。また、ケルバー教授は、私がドイツ語が不十分なのを考慮してくださり、ご多忙の中、水曜日の午後に対一で説明してくださいました。まったく感謝せずにはいられません。

それではまた、ご報告させていただきたいと思えます。(一九九三年十二月) 一月と二月にドイツ語の試験があり合格しました。これによって私は、この春から正式にドクターコースの学生となります。今までのようにドイツ語の授業に出席する義務もなく、留学の本来の目的である「インド学の研究」に専念できることを喜んでおります。これも理事長さまはじめ多くの方々のおかげと、心より感謝申し上げます。研究を本格的に始めるにあたり、専門書などを日本でそろえなければならず、二月から三月にかけていったん帰国いたします。その際ぜひとも理事長さまにお目にかかり今までのお礼を申し上げたいと思いません。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。ご自愛をお祈り申し上げます。

(一九九四年二月)

オランダ

早川 敦

黒田武志理事長先生の育英会のご事業がすでに十年の節目を迎えるというこ  
とで、心からお祝いをもうしあげます。ご恩恵にあずかりました者の一人とし  
て、一層の発展をお祈り申し上げております。こちらの大学の方は九月頃に修  
了の予定ですので、その後一時帰国してご挨拶にうかがいたいと思存じます。

修士論文は、かなりおもしろい方向に進展しております。目下、かなり大胆  
な仮説を展開していて、指導教官のボーデヴィッツときおり激しい議論を戦  
わせたりしております。仮説の検証に成功すれば、とてもおもしろいことにな  
るかと思いますが、今のところ五分の確率といったところです。がんばりたい  
と思います。

インド

協領 至

昨年十一月十七日にプーナ大学にて、P.D.委員会による認定会議が開かれ、  
私も正式にP.D.研究生として登録されました。ジャイナ論理学と仏教倫理学と  
の比較分析を研究対象とし、"Nyaya-dipika"という十四世紀の裸行派の論書を  
メインテキストにします。現在私の所属するサンスクリット高等研究所で、教  
授陣のご教示を受けながら、クリティカル・エディション、翻訳、ならびにノ  
ートを作成中です。すべてがかなり難解で、時間をかけた丁寧な読み込みが必  
要とされますが、今は留学させていただいたことで得られた貴重な時間を、こ  
のテキストの読み込み一つに集中させてみたいと思っております。

日 本

嘉木揚 凱朝

この強大な伝統社会を誇るインドさえも、時代の激しい「うねり」には逆ら  
いがたく、人びとの生活や考え方も変わりつつあるようです。新しい価値を模  
索し、困惑する人びとが知るべきは、かつて釈尊が経験され、黒田理事長先生  
がことあるごとに触れられる、「ゼロからの出発」ということでしよう。私もこ  
のことを私なりに受け止めて、「今の自分がすべきこと」を求めたいと思いま  
す。

黒田先生お元気でいらつしやいますか。お釈迦さまの誓願に生きて、世の人  
びとに尽くすことを第一とお考えの先生に、私はたいへん敬服しております。  
前世のご縁のおかげで、先生にお目にかかることができました。それからた  
いへんお世話になりました。先生のご苦勞によって、私はようやく留学僧とし  
て日本にまいることができました。先生のご恩情とご厚意が一生忘れられませ  
ん。心から感謝しております。

私は日中仏教交流のために日本にまいりました。これから日本語を一生懸命  
覚えるようにがんばります。将来、先生のご期待に添うように、貴国の仏教界  
の先生方と一緒に世の人びとに仏教精神を深く影響させるように努力していき  
たいと存じます。

## FOREWORD

The proverb says, there is no colour of pinetree, such as joints of bamboo to recognize its age. Time has passed endlessly just as the same pace as it were, though it has big, small, long, or short joints like bamboo's.

There were two big events our temple this year. One is the tenth anniversary of our Scholarship Foundation for International Buddhist Study, another is the twenty-fifth anniversary of our temple. Therefore, to memorize the former event, we held the service by Rev. Shuyu Sakurai, the president of Komazawa University, and the ceremony to invite Rev. Rotengekka Hojo of Tsudoji-Temple, which is the head temple in Korea.

I'd like to explain about Hojo. In Korea, there are only four priests called by this honorific title, while in Japan, the chief priest, that is, Hojo. Rev.

Rotengekka is the priest of highest rank, to be installed as the Soshō of the Sokei Sect next April.

Then, to memorize twenty-fifth anniversary of our temple, as many as 550 people took part in the celebration on scale at Sojiji-Temple. We held the memorial service by Rev. Umeda Shinryū Kanshū at Taisodo, the ceremony at Zuioden, and the meal of celebration at the banquet hall on the fourth floor of Sanshokaku. These was the big event for whole four hours.

Excuse me for mentioning something personal, but I was appointed as Gondai Kyōshi and shouldered responsibility for Kionne, which means to be honored putting on yellow surplice. I am grateful from bottom of my heart to your encouragement and supporter's cooperation, and hope you will favor us with your continued patronage.



## 編集後記

▼『成寿』23巻秋季号をお送りいたします。今夏は記録的な高温・少雨で、マスコミは酷暑、猛暑と連日の暑さの形容詞えらびに苦勞するほど、炎熱地獄は斯くやと思われましたが、皆様にはいかがお過ごしでしたでしょうか。

▼善光寺は開創二十五周年を迎え、五月三十日に大本山總持寺様で、梅田信隆禪師さまご親修の法要と記念式典を挙行致しました。謹んでご報告しますとともに、これも偏に皆様様のお陰と篤く感謝申し上げます。▼設立十周年を迎えた横浜善光寺留学僧育英会は三月三十日、韓国・曹溪宗通度寺の老天月下方丈をはじめ多数の来賓が参列して、記念式典を行いました。皆様から過分な賛辞を

賜り、お言葉の一言一句をこの十年の重みとして受け止め、改めて今後の励みとさせていたいただきたいと存じます。

▼十年間に十六カ国・五十六人の留学生が日本および世界各地で勉学・研鑽を積んでおります。ご支援に心から感謝申し上げます。

▼記念事業として関係十カ国訪問記『法燈の国際化をめざして』（法燈は海を越えて）を出版いたしました。各界から反響も大きく、多くの方々に喜ばれております。また来春には『留学僧論文集』第二集を発刊の予定。ご期待下さい。

▼本号は「開創二十五周年」と「留学僧育英会設立十周年」の二特集となりました。それぞれ式典の盛儀をカラーページと本文でご紹介いたしますが、善光寺にとりましては記念

すべき平成六年であります。その上、佛師錦戸新観師造願の聖徳太子坐像を勧請することができ、喜びも一入でございます。

▼善光寺ニュースでお伝えしたとおり、十月中旬、韓国・通度寺を訪問の子定です。国際講演会も予定されており、善光寺から日韓佛教交流の輪が広がって、つながりが密になっていくことを願っています。

▼間もなく秋彼岸です。ご先祖様を尊び、一日一日を大切に過ごしてまいりますよう。

成寿 第二十三号

平成六年九月一日発行

発行所 成寿山善光寺

横浜市港南区日野中央一丁目十二番九号

電話 〇四五(八四五)一三七一

印刷所 神奈川新聞社出版局





横濱善光寺